

京都女子大学 地域連携研究センター

Annual Report 2023



RCCP
The Research Center of
Community Partnerships

目次

■地域連携研究センター	
2023年度の活動を振り返って 地域連携研究センター長 中山 玲子	01
■女性地域リーダー養成プログラム	
2023年度開講科目一覧	02
■連携プロジェクト補助事業	
2023年度連携プロジェクト補助事業一覧	12
京都刑務所との木育による造形プロジェクト 発達教育学部 児童学科 教授 矢野 真	13
駅ナカアートプロジェクト-京都をアートで元気に- 家政学部 生活造形学科 准教授 江口 淑子	15
「音楽アウトリーチを通じた生涯学習活動」 発達教育学部 教育学科 音楽教育学専攻 助教（任期付き）坂本 光太	17
電車／駅構内での性暴力防止を目指して-学生目線のポスター作成- 法学部 法学科 市川 ひろみ 家政学部 生活造形学科 江口 淑子 ジェンダー教育研究所 戸田 香	19
■その他の連携活動	
シンポジウム・セミナーを対面やオンラインで開催	21
■生涯学習	
京都女子大学が提供する学びの場（公開講座 / 生涯学習講座 / リカレント教育課程）	23
2023年度 公開講座一覧	23
2023年度 生涯学習講座一覧	26
「いつまでもいくつになってもよい姿勢」 地域連携研究センター客員研究員 原田 奈名子	29
2023年度 リカレント教育課程概要	31
2023年度 主な活動実績	37
協定締結先と連携協定内容一覧	38
京都女子大学地域・産学官連携ポリシー	40

※教員の所属・職名は2023年度当時

2023 年度の活動を振り返って

地域連携研究センター長 中山 玲子

2023 年度は、5 月に新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行し、少しずつコロナ禍前の活動ができるようになってきました。これもひとえに連携・協定先の諸機関並びに地域の皆さまのご理解とご支援・ご協力のおかげと、心より感謝申し上げます。

2023 年度の連携・協定先は、西宮市、京都府久御山町、ダッソー・システムズ株式会社、ダイハツ工業株式会社、株式会社ナイトレイ、エイツーヘルスケア株式会社、株式会社インテージホールディングス、藤田興産株式会社（長岡スイミングスクール）、名古屋製酪株式会社、一般社団法人 El Sistema Connect、社会福祉法人 恩賜財団京都済生会病院であり、行政、企業、各種団体等と多岐にわたり、包括連携協定を締結できた。特に、2023 年度は 4 月にデータサイエンス学部が開設されたことから、昨年度に引き続き、データサイエンス教育・研究、人材育成にかかる連携協定が多かった。

「女性地域リーダー養成プログラム」（地域連携活動科目）は、昨年同様 80 名未満の講義は対面型、それ以上の受講生数の講義はオンデマンド型で開講とし、多くの学生に受講してもらうことができた。寄附講座（特にオンデマンド）の講師の皆さまには、録画による講義提供をしていただき、直接学生とのコミュニケーションが取れず、申し訳なく思う次第である。しかしながら、2019 年度より開始した女性地域リーダー養成副専攻プログラムの単位を修了した者が少しずつ増加していることは、ご協力いただいた皆さまのおかげと心より御礼申し上げます。

大学全学科、附属施設提供の生涯学習講座や公開講座もオンライン開催が多かったが、対面での開催を再開した学科もあり、コロナ禍の収束を実感した方も多かったように思う。

地域連携活動も祇園新橋地区地域行事や京都刑務所の総合防災訓練、矯正展等に学生が参加させていただいた。連携プロジェクト補助事業は、京都刑務所との木育による造形プロジェクト（京都刑務所）、KYOTO 駅ナカアートプロジェクト 2023（京都市交通局）、音楽アウトリーチを通じた生涯学習活動（東山区社会福祉協議会、NPO 法人音の風）、性暴力撲滅ポスター作成（京都市交通局）も素晴らしい成果を報告してもらったが、連携先の関係各位、地域の皆さまに心より御礼申し上げます。

さて、地域連携研究センターのもう一つの活動であるリカレント教育は、2018 年度から開講してきた平日通学コースが 6 年目となり、確実に実績を上げている。加えて、2023 年度は、「女性リーダー・管理職養成コース」を有料とし自走化した。これは、文部科学省令和 4 年度補助事業「女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援事

業」で、「管理職を目指す女性のためのマネジメント力アップ・プログラム」が高評価であり、履修生や企業からご要望があったことから、自走化に踏み切ったものである。講座中の実践的な演習やロールモデルセミナーが、リーダーシップ育成や意識改革に有効に働き、リーダーシップ力に自信がついた者が 89%（受講前 17%）、マネジメント力に自信がある者が 72%（受講前 11%）、満足度も 100% と高く、次年度もさらにバージョンアップして参りたい。

また、令和 5 年度「女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援事業」も 4 年連続で採択され、「ウイミンズカレッジ（KNF）連携マネジメント基礎コース」を開講した。KNF とは女性リーダー育成のリカレント教育課程に実績がある日本女子大学、福岡女子大学及び本学の 3 女子大学が連携して、多様な指導的立場の女性を総合的に支援するマネジメント力養成の視点から、各大学の特徴的な講座を提供していただき構築したプログラムである。市川房枝記念会、日本女性教育会館からもセミナーをご提供いただき、また、受講生同士のネットワーク化とキャリア開発への意欲を高めることにも努めた。オンライン開講のため、富山県から沖縄県まで、広域の方々に受講していただくことができた。また、12 月 16 日には京都女子大学リカレント教育課程シンポジウム「働きながら学ぶ」を対面で開催し、上述の受講生にはオンデマンドで視聴していただいた。受講後、リーダーシップ力に自信がついた者やマネジメント力に自信がある者が増加し、オンライン授業ではあったが、一定の成果が見られた。

また、京都府リカレント教育推進機構提供コースとして、DX 人材育成コース（前期）・DX 人材育成（アドバンス）コース（後期）を開設し、好評を得ている。

さらに、令和 4 年度から「女性のためのリカレント教育推進協議会」会長校を日本女子大学より引き継がせていただいているが、2 月中旬に「アントレプレナーとリーダーシップ」というテーマでシンポジウム（大同生命株式会社ご寄付）を開催した。協議会参加校のリカレント履修生を交えてのパネルディスカッションも、リカレント教育の履修生が社会で活躍してきている成果を実感する内容で、大変好評であった。

リカレント教育事業も今年度で丸 6 年が経過し、修了生も 340 名にのぼる。これも、連携協力機関との緊密な連携活動があったからこそと心より御礼申し上げます。

今後も、京都女子大学の教育理念である、「ジェンダー平等の実現に貢献できる人材育成」および「生涯学び続けることのできる大学」を目指して、地域連携研究センターは、今後も産官学と連携して更なる活動を展開していく所存です。皆さまの一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

女性地域リーダー養成プログラム 2023年度開講科目一覧

○女性リーダー養成プログラムとは

2017年から開講した女性リーダー養成プログラムは、各学科、専攻で習得した専門性に加えて、地域課題の発見能力、問題解決能力、実践力を備えた行動できる女性、地域リーダーとなり得る女性の養成を目的としている。2019年以降に入学の学生には、共通領域副専攻プログラムとなっている。

科目名	担当者	開講時間	概要
連携活動入門	竹安 栄子	後期/火 8	連携活動に従事するにあたって、知っておくべき基礎的な事項や身につけておくべき倫理事項、さらに多様な連携活動の実態について講義する。なぜ今、連携活動が社会的に求められているのか、大学生がさまざまな連携活動に従事することの意義が何なのかを、具体的な事例を交えながら講義する。
地域連携講座 A1	久保 雅子	後期/木 7	本授業は関西の企業様のご協力の下、各々ご担当者を招聘して組み立てられている。半期15回のうち最初の5回は働くための基礎知識の修得で、6回目～14回目のロールモデル講義が必要となる予備知識になる。最初のガイダンスと最後の全体総括を担当者が行う。
地域連携講座 A2	表 真美	後期/ 集中講義	この授業では益々多様化する社会の価値観に対し、世界と日本そして地域社会とその文化特質に関し特にサービス&ホスピタリティの視点から、その中心的産業の第一線で活躍するゲスト講師の講義と各企業へのフィールドワークを通して、自らの価値観醸成を目的とする。
地域連携講座 A3	表 真美	後期/ 集中講義	5日間で5名の講師が、それぞれの分野についての基本や歴史背景の講義、実演、実習を行う。基本的な調理実習においても、プロとの違いを体験してもらい、プロフェッショナルとは何なのかを理解することを目的とする。※2022年産学連携講座A3から2023年度は地域連携講座A3へ変更
地域連携講座 B1	岡崎 昌枝	前期/月 7	本講義は、自身のライフイベントとそれに伴う様々なリスクを理解し、そのリスクへの対処方法には地域社会にある様々な社会資源（フォーマル・インフォーマル）を活用し、自身も柔軟なネットワークをもつことが必要であることを学ぶ。
地域連携講座 B2	中山 玲子	前期/月 2	行政や企業、各種組織の実務担当者をゲストスピーカーとして招き、それぞれの分野からみた京都の社会や産業の実態を講じてもらうオムニバス形式の授業。京都市の姿と京都市が直面する課題を多角的視点から理解し、かつ課題解決に向けて学生自身が地域貢献活動に主体的に取り組むよう学生の行動を促進することを目的としている。
地域連携講座 B3	2023年度は不開講		2024年度開講
産学連携講座 A1	一力 知一	後期/金 5	企業の第一線で活躍する現役ビジネスパーソンである教員が教える社会・ビジネスに必要なスキル講座。 普段の生活・暮らしと関連のある具体的な事例を豊富に取り上げ、企業の見方、社会の見方を学ぶ。ビジネス界で数多くの講演やプレゼンを行ってきた教員によるプレゼンテーション実践実習により、本当に使えるプレゼンスキルを身に付ける。 プレゼン実習は、発表者、質問者の役割を決めて行う。プレゼンテーションに慣れていない学生には要望に応じて個別フォローをいたしますので安心してください。 対面授業だからこそこのインタラクティブな講義で、ビジネスコミュニケーション力を身に付ける。
産学連携講座 A2	野村證券株式会社 (寄附講座)	後期/火 7	資本市場に求められる役割とは何か。激変する日本の資本市場の全容と投資のリスク&リターンの考え方、株式投資・債券投資・ポートフォリオ運用・外国為替相場など証券投資における重要なテーマを実務の観点から解説する。
産学連携講座 B1	株式会社朝日新聞社 (寄附講座)	前期/火 5	新聞記者（講師）が様々な社会問題やコミュニケーションをテーマに講義をする。学生はそれぞれの意見を論作文として提出。講師が添削し講評する。また、記事を使って社会問題を考える。なお、ニュースの動向などにより、授業計画を変更することがある。
産学連携講座 B2	DaiGas エナジー株式会社 (寄附講座)	前期/木 4	Daigas グループが実施している活動やエネルギー関連の基礎知識等を学び、かつ女性の社会活動の活躍について説明を加えながら身近な社会について考える機会とする。
産学連携講座 B3	連合京都・企業各組織 (烏蘭格日楽)	前期/木 2	労働組合や企業・公務などの実務担当者をゲストスピーカーとして招き、それぞれの分野からみた働くことに必要な基礎知識について学ぶ、オムニバス形式の授業。働くことについての課題を多角的視点から理解し、かつ課題解決に向けて学生自身が主体的に取り組むこと、自らの働き方を学生が考え行動できるように促進することを目的としている。
連携課題研究	桂 まに子	通年 集中講義	本授業では、受講生が地域社会の担い手となることを想定し、地域で様々な仕事や活動を行う上で必要となる社会との関わり方や、地域の情報を収集・整理・編集して正確に発信する技術力を身につけることを目指す。具体的には、地域や企業、公共施設等との連携の課題を整理し、プロジェクトテーマを設定し、受講生のこれまでの学びや情報技術を活かした問題解決を試みる。
連携課題研究	宮原 佑貴子	通年 集中講義	本授業では、京都の地において長年育まれてきた伝統的産業である着物の染色技術の奥深さを知るとともに、現代の課題を発見し、解決に導く手法を考察する。
地域社会学	中道 仁美	前期/月 3	地域社会とは何かを理解し、現代社会における地域の現状と問題について考える。地域社会の歴史と現状を理解し、主要な地域社会学の理論とその展開過程、現代社会と地域の関係について学ぶ。現代社会をより深く理解するため、地域社会学という新たな分析視角を身につける。
民俗文化論	竹安 栄子	後期/月 8	私たちが日常生活の中で当たり前だと考えている習慣や習俗は元来、どのような意味を持っていたのだろうか？ 私たちにとっての「常識」は、他の文化から見て「常識」と考えられるのだろうか？ 「伝統」は一体いつ始まり、どのようにして「伝統」になっていったのだろうか？ どのような素朴な疑問から出発して、私たちの社会に蓄積されてきた民衆の文化を体系的に講じ、「伝統」とは「保守」ではなく「革新」であることを明らかにしていく。

連携活動入門

連携活動事始め～連携活動にチャレンジ～

【担当教員】竹安 栄子

【授業形態】オンデマンド型授業

【授業の到達目標】

1. 連携活動の社会的意義について理解する。
2. 連携活動の基礎知識を身につける。
3. 連携活動への従事が自分の成長を促すものであることを体験する。

【学位授与の方針との関連】

大学や企業、さらには市民として担うべき社会的責任を、具体的・実践的に学ぶことによって、「学位授与の方針」の「高い倫理観を備え、市民としての社会的責務に対する自覚」を養うことを目指している。

【授業計画】

受講期間中、1度は学外での活動に参加する。なお活動先は、こちらから紹介し、初めての学生も安心して受講できるよう配慮している。2022年度の学外活動先は以下の通り。毎年受講生からは、「参加してよかった」との感想が寄せられている。

1. 「七條大橋のお掃除と交流会」
2. 五条坂茶わん坂ネットワーク主催「わん碗 ONE 展開催準備への協力」
3. 祇園新橋景観づくり協議会主催「祇園新橋の落ち葉掃き」
4. 祇園新橋景観づくり協議会主催「お火焚祭 準備、祭事・後片付け」他

第1回 オリエンテーション

第2回 I. イントロダクション

II. 地域社会を知ろう

1. 連携活動とは？なぜ、今求められるのか
2. 「地域社会」の構造と地域課題：京都市東山区を事例に

第3回 II. 地域社会を知ろう

3. 東山区ウォーキングのためのオリエンテーション
 - ①大学の周辺地域（馬町から六原地区、今熊野商店街）を歩く
 - ②祇園新橋地区を歩く
 - ③連携活動に求められる倫理事項

第4回 II. 地域社会を知ろう

4. 東山区ウォーキング：多様な顔をもつ東山区

①大学の周辺地域（馬町から六原地区、今熊野商店街）を歩く

②祇園新橋地区を歩く フィールドワーク

第5回 第4回に引き続き東山区ウォーキング

第6回 II. 地域社会を知ろう

5. 京都市を学ぶ：

ゲストスピーカー：京都市役所総合政策局

第7回 II. 地域社会を知ろう

6. 京都市の大学政策

ゲストスピーカー：大学コンソーシアム京都 須蒲浩二氏

第8回 III. 人口減少社会の地域課題

7. 人口減少と女性の社会参画

①日本の近未来の姿

②女性の社会参画

第9回 IV. 市民によるまちづくり活動

8. まちづくりの担い手としての市民

①京都のまちづくり

ゲストスピーカー：京都市景観・まちづくりセンター 池谷憲彦氏

②町内会を中心とした活動

ゲストスピーカー：NPO 京都景観フォーラム

森川宏剛氏

第10回 VI. 京都女子大学の連携活動

9. 京都女子大学地域連携研究センターの社会連携活動

第11回 VII. 企業の社会的責任

10. CSR と SDGs

①なぜ CSR なのか

②CSR の歴史

③SDGs と企業

第12回 VII. 企業の社会的責任

11. 企業の連携活動：地域創生とダイバーシティの推進

ゲストスピーカー：① NTT 西日本人事部ダイバーシティ推進室 室長 横田さくら氏「NTT 西日本における SDGs の取り組み」

第13回 VII. 企業の社会的責任

12. 企業の連携活動：地域創生とダイバーシティの推進

ゲストスピーカー：② NTT 西日本クラウドソリューション部 地域活性化推進担当部長 杉原薫子氏「地方創生にむけた、地域と企業の連携活動（CSV）の取り組み」

第14回 VIII. 連携活動実践①（連携実践活動の代休なし）

第15回 実践活動体験発表会（全員のプレゼンテーションをネットワーク上で視聴）

地域連携講座 A1

日本型雇用が残した負の資産からジェンダー平等を阻む要因を理解し、各業界で活躍する先輩たちの話を聴くことで、主体的に自分のキャリアを考え、行動し学び続ける大切さを習得する

【担当教員】久保 雅子

【授業形態】オンデマンド型授業

【授業の到達目標】

1. 社会やビジネスを取り巻く環境が大きく変わっていく中で、なぜ日本は先進国の中で労働生産性が低く、ジェンダーギャップが大きいのか、その原因を把握する
2. 女性の雇用施策と非正規雇用という働き方について学ぶ
3. 様々な業種・職種で活躍する女性リーダーたちの講義を通してキャリア選択の要因やリーダーシップについて考える
4. 自分自身のキャリアを主体的に考え、デザインすることの大切さを学ぶ

【学位授与の方針との関連】

社会経済、技術の変化についての知識の理解を深め、ロールモデルの女性リーダーたちの生き様を通して、自身のキャリアを考えるきっかけにする。そして将来、自分自身がビジネスや社会、家庭の中で、重要な意思決定に参画できているイメージがもてるようにする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションと本講座受講後のアウトプット「自分のキャリア設計図作成」を説明
- 第2回 「働く女性」を取り巻く現状
- 第3回 働き方の多様化を踏まえた社会保障
- 第4回 女性のキャリアを支援する法律「女性活躍推進法」について
- 第5回 企業における女性活躍推進の課題
- 第6回 地方公務員／大阪府政策企画部
- 第7回 企業／人事
- 第8回 企業／経理
- 第9回 企業／営業
- 第10回 企業／SE
- 第11回 大学職員
- 第12回 元国連職員
- 第13回 ホテル／支配人
- 第14回 起業
- 第15回 まとめ 自分のキャリア設計図作成

地域連携講座 A2

地域文化理解

【担当教員】表 真美

【授業形態】対面授業

【授業の到達目標】

この授業では、対象となる産業界（航空業界・ホテル業界・放送業界）の理解と合わせ、似て非なるサービスとホスピタリティの相違、そして世界から評価される日本の“おもてなし”の本質を理解し自ら実践できる基礎作りを目的とする。

【学位授与の方針との関連】

社会性・自立性

【授業計画】

- 第1回 開講挨拶～オリエンテーション「サービスとホスピタリティとは…」
- 第2回 【ホテル業界—1】観光立国への課題「世界&日本のホテルについて」
- 第3回 グループディスカッション
- 第4回 DVD鑑賞「コンシェルジュとは…」
- 第5回 【ホテル業界—2】東京ステーションホテルの歴史と役割
- 第6回 【ホテル業界—3】ホテルの業務と総支配人の使命〔第5・6回後、午後ホテル視察〕
- 第7回 【航空業界—1】航空産業論
- 第8回 【航空業界—2】JAL スカイが目指すサービス—1
- 第9回 【航空業界—3】JAL スカイが目指すサービス—2
- 第10回 【航空業界—4】航空業務（羽田空港）について（オペレーションセンター・他）
- 第11回 【空港業務—5】安全管理について（安全啓発センター・整備工場）〔第10・11回は現地フィールドワーク〕
- 第12回 【放送業界—1】インバウンド増加の光と影
- 第13回 【放送業界—2】世界の中の日本—1
- 第14回 【放送業界—3】世界の中の日本—2
- 第15回 授業総括～閉講挨拶「めざすべき新たな社会とは…」

地域連携講座 A3

地域文化理解（食版）

【担当教員】表 真美

【授業形態】対面授業

【授業の到達目標】

この授業では、世界や日本、地域社会の多様な食と食文化に関し、国内外の第一線で活躍する食のプロフェッショナルによる講義と調理実習、フィールドスタディを通じ、食についての基本的理解と価値観の醸成を目的とします。

【学位授与の方針との関連】

知識・理解

【授業計画】

- 第1回 講義「フランス料理の真髄」 三國清三
- 第2回 調理実習及び試食「きのこのスープ、カプチーノ仕立て」 三國清三
- 第3回 講義と実演「パティシエの基本技術」 浅井拓也
- 第4回 調理実習及び試食「カスタードクリームたっぷりのシュークリーム」 浅井拓也
- 第5回 講義「日本料理の歴史について」 平塚未来
- 第6回 講義と実演「日本人のうま味を極める」、「出汁の違いや美味しいご飯の炊き方」 平塚未来
- 第7回 調理実習及び試食「美味しいご飯と出汁の実践」 平塚未来
- 第8回 講義と実演「あなたの知らないビーガン、ベジタリアンの世界」、「ビーガン料理実演」 本道佳子
- 第9回 調理実習と試食「和ビーガン料理2品」 本道佳子
- 第10回 講義「発想の転換から生まれる未来の食」 本道佳子
- 第11回 講義「食を通じた街づくりについて」 井上友美
- 第12回 丸の内エリア視察「食や地方創世をテーマにした施設の視察」 井上友美
- 第13回 調理実習及び試食「スポーツと栄養素の食べ合わせ学ぶ調理実習」 井上祐子
- 第14回 講義「調理実習で学んだこと」 井上祐子
- 第15回 講義「総括及び料理人の社会貢献」 三國清三

地域連携講座 B1

ライフイベントとリスクマネジメント

【担当教員】岡崎 昌枝

【授業形態】オンデマンド型授業

【授業の到達目標】

社会人として生活するなかで、就職・結婚・出産・育児など様々なイベントがある。生涯にわたって起こるこれらのイベントには様々なリスクも伴っていることを予め理解しておくことで、様々な機関や団体を知り、ネットワークの大切さについて学び、リスクを最小限にとどめることができる

【学位授与の方針との関連】

本講義を通じて受講生はライフイベントとその周辺のリスクを知り、そのリスクへの対処方法としての予備知識を得ることができる。さまざまな社会資源とネットワークについて予め理解しておくことで正しい判断と適応力を見につける。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、ライフイベントとリスクマネジメント
- 第2回 社会資源とネットワーク
- 第3回 大人の発達障害（発達支援センター）
- 第4回 メンタルヘルス（精神保健福祉士）
- 第5回 キャリアについて（キャリアコンサルタント）
- 第6回 働くことについて（まとめと振り返り）
- 第7回 性教育、LGBT（京都 SARA）
- 第8回 妊娠・出産（保健師・助産師）
- 第9回 出産と職場復帰（保育士）
- 第10回 離婚、ハラスメント、労働災害（弁護士）
- 第11回 女性特有の疾病と予防【医師】
- 第12回 性に関して（まとめとふりかえり）
- 第13回 老後への備え
- 第14回 女性と災害（男女参画推進センター）
- 第15回 社会資源活用のすすめ

地域連携講座 B2

京都の社会と連携活動

【担当教員】中山 玲子

【授業形態】対面授業

【授業の到達目標】

1. 地域社会としての京都の実態を理解する。
2. 京都を事例として、現代の日本の地域社会が抱える課題を理解する。
3. 地域社会の多角的側面を理解する。
4. 行政をはじめとした各種分野の実態を理解する。
5. 地域社会が市民の力で成り立っていることを理解する。
6. 学生が地域社会の構成員として行動することが社会から期待されていることを理解する。

【学位授与の方針との関連】

京都の社会を多角的に理解することによって、社会についての広い教養を培うことが出来る。また社会を構成する多様な組織・機関の役割を学ぶことによって、組織の中で、自らの専門的知識・理解・技能、個性や能力を活かして協働する重要性を理解する。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション：本講義の概要や目的など受講に当たって理解しておくべき事項について
- 第2回 京都女子大学が取り組んでいる地域連携や貢献活動について
- 第3回 京都市役所：京都市の人口・世帯、産業など京都市の概要と京都市役所の役割について
- 第4回 東山区役所：市次期東山区基本計画「住んでこそ！東山プロジェクト」人口減少が著しい東山区について、現状と課題、今後の取組について
- 第5回 NPO 京都景観フォーラム：世界から称賛される京都の景観がどのようにして維持されているのか、だれの手によって保全されているのか、現場の経験に基づいて講義
- 第6回 京都保護観察所：刑務所に入るほどではない軽微な犯罪を犯した青少年や刑期を終えて刑務所を出所した人たちの生活と更生を支える制度を構成活動の最前線で日々努力する人たちの声を通して学ぶ
- 第7回 京都刑務所：「負の回転ドア」という表現に象徴されているように、日本の犯罪者の半数が再犯

者で占められている。なぜ犯罪を繰り返すのか、それを解消するには市民として何を必要があるのか、刑務所で犯罪者の厚生に尽力する刑務官による講義

- 第8回 京都銀行：地方銀行と都市銀行の違いから始まって、地方銀行が地域経済に果たす役割について実務家が講義する。
- 第9回 招徳酒造：京都の伝統的地場産業の一つである伏見の酒造業の歴史から現状を学ぶと共に、現在酒造メーカーが直面する課題について話を聞く。招徳酒造は伏見で唯一の女性社長の蔵である。
- 第10回 ハイアットリージェンシー京都：世界に展開するグローバルホテルであるハイアットリージェンシー京都の総支配人による講義。グローバル企業としてのハイアットの理念から「京都」のハイアットとしての特徴をどのように経営に生かしているのか、さらにグローバル企業から見た京都の観光について話を聞く。
- 第11回 京都市中央卸売市場：「京の台所」を支える中央卸売市場の機能と役割を学ぶ。
- 第12回 朝日新聞社：全国紙と地方紙の違い、新聞が地域社会に果たす役割など、記者の目から見た地域社会について現職の記者が講義する。
- 第13回 東山区社会福祉協議会：高齢化率33%という東山区の高齢者の生活実態を、社会福祉の最前線の実務家から学ぶ
- 第14回 京都ジョブパーク：本学学生の就職状況あるいは就活の現状を通して京都の産業を考える。
- 第15回 総括

産学連携講座 A1

大学で学んだ多くのことを社会で活かすためのスキルを身に付け、社会に貢献できる人材へのステップアップを！

【担当教員】一力 知一

【授業形態】対面授業

【授業の到達目標】

- ・社会・ビジネスで今求められている必要なスキルである論理的思考、仮説思考についての知識を獲得する
- ・論理的思考、仮説思考を活用し、自分なりの社会課題設定などができるようになる

- ・財務諸表の分析などの経営分析手法などから企業の戦略などを読み解けるようになる
- ・課題設定やそこに至る分析などのテーマに基づくプレゼンテーションで相手に伝える力を養う
- ・実は重要な質問力を養う
- ・実社会で活躍するロールモデル(自分が目指したい社会人像)をおぼろげなりでもイメージできはじめる

【学位授与の方針との関連】

論理的思考、仮説思考、ビジネス戦略構築フレームワークなどを学び、プレゼンテーション実習などを通してコミュニケーションスキルを獲得することまた、講義で教える手法を使っているかという評価に加えて、取り上げるテーマ(社会課題やSDGsなど)に対して自分なりのユニーク性を加えて評価する。

【授業計画】

- 第1回 ビジネススキルの前に、まず「そもそもビジネスとは何」?
- 第2回 判断におけるココロの科学(アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)など)について
- 第3回 ビジネスを成功に導くビジネスフレームワーク: 戦略構築モデル AS IS-To Be モデルについて
- 第4回 ビジネスを成功に導く思考モデル: 仮説思考・論理的思考について
- 第5回 ビジネスフレームワーク、思考モデル演習: 事例を使って考えてみよう。なぜ、芸術が日本にビジネスとして根付いたのか? など
- 第6回 社会課題事例: 暮らしとつながりのある企業事例、障がい者のおかれている現実についてなど
- 第7回 就活にも役立つ企業の見方「財務データ諸表から企業をみると今まで違ったもの見えてくる」について
- 第8回 ビジネス界で今、はやっていること:「どうしてNetflixはレンタルビデオ会社から世界的な映像制作・配信会社に変貌しえたのか」などイノベーションのジレンマから両利き経営へ
- 第9回 競争力とは: 国の競争力、企業の競争力を事例に
- 第10回 企業が取り組むSDGs、DEI(Diversity, Equity and Inclusion)の事例について
- 第11回 特別講義: 伝える力について
- 第12回 プレゼンテーションスキルセミナー: 上手なプ

レゼントはどんなもの? 上手な自己紹介ってどうやってつくる? など

- 第13回 プレゼン作成ワークショップ
- 第14回 プレゼンテーション実践実習1
- 第15回 プレゼンテーション実践実習2

産学連携講座 A2

基礎知識としくみの理解

【担当教員】野村証券株式会社(寄附講座)

【授業形態】オンデマンド型授業

【授業の到達目標】

証券・金融市場関連のテーマを中心とする講義を通じて、社会・経済の動向に関する見聞を広め、今後の社会生活や資産形成の際に必要な知識を習得する。

【学位授与の方針との関連】

証券・金融市場について知識を深め、社会全般についての教養を習得する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス・経済情報の捉え方
- 第2回 金融資本市場の役割とその変化
- 第3回 債券市場の役割と投資の考え方
- 第4回 株式市場の役割と投資の考え方
- 第5回 投資信託の役割とその仕組み
- 第6回 リスク・リターンとポートフォリオ分析)
- 第7回 外国為替相場とその変動要因
- 第8回 産業展望と投資の考え方
- 第9回 行動ファイナンス~投資家心理について
- 第10回 ライフプランと資産形成
- 第11回 公的年金制度について
- 第12回 確定拠出年金について
- 第13回 DCポートフォリオの作成
- 第14回 マネープランの作成
- 第15回 まとめ

産学連携講座 B1

新聞を通じて、現代社会の諸問題について理解を深め、社会に対する問題意識を養う。意見や文章を比べ、多様な視点を持つ。

【担当教員】株式会社朝日新聞（寄附講義）

【授業形態】対面授業

【授業の到達目標】

1. 新聞を通し情報リテラシーを高める
2. 社会問題について「自分の意見」「多様な視点」を持つ
3. 社会で求められる「書く力」「伝える力」を養う

【学位授与の方針との関連】

1. 新聞記事を通して、社会についての広い教養を培うことが出来る
2. 論作文指導によって、日本語の正確な理解力と表現力を鍛えることが出来る
3. 論作文の執筆を通して批判的・合理的な思考を展開する力を磨く
4. 新聞記事に表現された記者や専門家の考え方を学ぶことによって、高い倫理観を備え、市民としての社会的責務に対する自覚を学ぶ

【授業計画】

- 第1回 「伝える」とは
- 第2回 メディアの特性
- 第3回 文章の書き方①
- 第4回 大学での学び
- 第5回 コミュニケーションと就活
- 第6回 文章の書き方②
- 第7回 震災報道から考える
- 第8回 文章の書き方③
- 第9回 文章の書き方④
- 第10回 国内問題を考える
- 第11回 国際問題を考える
- 第12回 インタビューの手法
- 第13回 実名と匿名
- 第14回 「平和」「民主主義」のゆくえ
- 第15回 講義まとめ

産学連携講座 B2

エネルギーを通して学ぶ女性活躍

【担当教員】Daigas エナジー株式会社（寄附講義）

【授業形態】対面授業

【授業の到達目標】

Daigas グループにおける活動や、女性活躍の場、エネルギーの基礎知識を学ぶことで社会活動に関する見聞を広め、今後の社会生活に必要な知識を習得する

【学位授与の方針との関連】

1. 主体的に課題を発見・解決できる。
2. 高い倫理観を備え、市民としての社会的責務に対する自覚を有している。
3. 専門的知識・理解・技能等を活用して、社会に貢献できる。

【授業計画】

- 第1回 Daigas グループの取り組みのご紹介
- 第2回 京都リサーチパークが展開するイノベーション創発活動とは
- 第3回 社会の変化とコミュニティ・デザインについて考え・実践する
- 第4回 Daigas グループの活動について① —女性活躍について(Ⅰ)—
- 第5回 工場跡地からイノベーション拠点へ
- 第6回 世界のエネルギー環境政策とDGGのカーボンニュートラルの取り組み
- 第7回 Daigas グループの活動について② —電力ビジネスについて—
- 第8回 社会とエネルギー
- 第9回 私たちの暮らしとエネルギー
- 第10回 世界の先端組織が実践する『対話』の新常識
- 第11回 Daigas グループの活動について③ —女性活躍について(Ⅱ)—
- 第12回 Daigas グループの活動について④ —女性活躍について(Ⅲ)—
- 第13回 Daigas グループの活動について⑤ —女性活躍について(Ⅳ)—
- 第14回 Daigas グループの活動について⑥ —女性活躍について(Ⅴ)—
- 第15回 1回～14回までの振り返り

産学連携講座 B3

働く女性のための基礎講座

【担当教員】 烏蘭格日樂

【授業形態】 対面授業

【授業の到達目標】

1. 働く上で知っておくべき基礎知識を習得する。
2. 働く楽しさや労働環境の実態を学ぶ。
3. 将来働くことに備えて、職業や企業を選択できる力を養う。

【学位授与の方針との関連】

働くことの基礎知識を得る

【授業計画】

- 第1回 イン트로ダクション
- ・本講義の概要や目的、成績評価、進め方な
 - ・なぜ連合が寄付講座を行うか（連合京都）
 - ・労働組合とは
- 第2回 ワークルール1：雇用について（正規雇用／非正規雇用）
- 第3回 ワークルール2：ワーク・ライフ・バランスのとれた働き方とは
- 第4回 ワークルール3：賃金について
- 第5回 労働組合の新たな運動スタイルの確立に向けた取組
- 第6回 労働相談事例をもとに
- 第7回 京都府の取り組み（若者就労支援、奨学金返済、ジョブパーク等）
- 第8回 労働者福祉事業について（近畿労働金庫、こくみん共済coop）
- 第9回 職場から1：教育関係（日教組）
- 第10回 職場から2：レジャー産業関係（UA ゼンセン）
- 第11回 職場から3：公務職場（自治労）
- 第12回 職場から4：金融関係（全労金）
- 第13回 職場から5：製造業
- 第14回 職場から6：医薬品関係
- 第15回 総まとめ

連携課題研究

地域連携課題を発見し、専門科目での学びや情報技術を活かした問題解決策を考える

【担当教員】 桂 まに子

【授業形態】 対面授業&遠隔双方向型授業

【授業の到達目標】

- ・地域課題の探索
- ・研究テーマに関する情報収集（文献、ウェブ、現地、関係者など）
- ・情報技術を用いた編集・発信（Wikipedia、OpenStreetMap など）
- ・自ら発信した経験をもとに、連携活動を進展させるための提案を行う

【学位授与の方針との関連】

女性地域リーダー養成プログラムの一環である本科目においては、主体的に地域の課題を発見し、地域の中で他者との対話や議論を繰り返しながら課題解決策を自ら提案することを旨とする。課題の内容によっては、情報通信技術(ICT)を活用した地域貢献の手法を学び、実践することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：Project Based Learning について：対面 #1（4月中旬予定）
- 第2回 地域や企業との連携課題について整理する：Zoom
- 第3回 プロジェクト準備（連携課題テーマの設定、情報収集）：対面 #2
- 第4回 Wikipedia を用いた地域情報の編集・発信について：Zoom
- 第5回 OpenStreetMap を用いた地域情報の編集・発信について：Zoom
- 第6回 プロジェクト設計（ミニプレゼンテーション、ディスカッション）：対面 #3
- 第7回 プロジェクト実行（1）：Teams & LMS
- 第8回 プロジェクト実行（2）：Teams & LMS
- 第9回 プロジェクト実行（3）：Teams & LMS
- 第10回 中間報告（ミニプレゼンテーション、ディスカッション）：対面 #4
- 第11回 プロジェクト実行（4）：Teams & LMS
- 第12回 プロジェクト実行（5）：Teams & LMS
- 第13回 プロジェクト実行（6）：Teams & LMS

- 第14回 研究レポートの作成：LMS
 第15回 最終報告・講評（最終プレゼンテーション、ディスカッション）：対面 #5

連携課題研究

京都の伝統的染織産業の参加体験型課題研究

【担当教員】宮原 佑貴子

【授業形態】対面授業

【授業の到達目標】

- ・ 京都の伝統的染織産業の技術や背景についての知識を得る。
- ・ 染織技術を体験し、固有の魅力や特色について知る。
- ・ 自らの体験と知識を融合し、オリジナルの提案と発表をおこなう。

【学位授与の方針との関連】

【社会性・自律性】

学外の方々と交流するため、社会の規範やルールに従い責任感のある行動をおこなう。また、グループワークによって、組織の中での役割を認識し、協調性を持ちながら個々の力を発揮する機会を創出する。伝統染織産業が抱える課題を発見し、解決するための提案をおこなうことにより、産業継承への貢献を目指す。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：京都の伝統染織産業と京都女子大学の取り組み
 第2回 京都の伝統的産業と京都女子大学の取り組み
 第3回 伝統的染織産業を活用した取り組みについてのリサーチ発表
 第4回 伝統的染織産業を活用した取り組みについてのリサーチ発表（講評、ディスカッション）
 第5回 京都の伝統的染色技法：特別講義「マドレー染の変遷と技術について」生活造形学科青木美保子教授
 第6回 染色技術の体験について（事前学習）
 第7回 染色技術の体験について（計画）
 第8回 染色技術の体験と取材（準備、設営）
 第9回 染色技術の体験と取材（ロールプレイング）
 第10回 染色技術の体験と取材（実施）
 第11回 染色技術の体験と取材（取材）
 第12回 染色技術の体験と取材（聞き取り調査）

- 第13回 プラン提案の企画書作成
 第14回 プラン提案の発表、合評（1）
 第15回 プラン提案の発表、合評（2）

地域社会学

地域社会を理解する

【担当教員】中道 仁美

【授業形態】対面授業

【授業の到達目標】

現代の地域社会は、少子高齢化、グローバル化など様々な課題を抱えている。本授業では、地域社会の現状と基礎理論を学びながら、以下の能力を養成することを目的とする。

1. 現代社会を地域視点から理解する
2. 地域に関する社会学の理論を身につける。
3. 現代社会の構造を理解する。
4. 新しい分析視角の有用性について考え、多様な分析視角を習得する。
5. 批判的・論理的な思考を磨き、意見・考えを文章にする。

【学位授与の方針との関連】

本授業を通して、主体的で批判的・合理的思考を展開できる能力を身に付けることを目標にしています。また、現代社会の諸分野の知識・理解に抛りつつ、広い視野と根拠にも覚いて判断できる能力を養成することを目標にしています。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション：授業の概略、進め方、注意事項の説明、参考文献の紹介
 第2回 地域とは何か：農村から都市へ、そして地域へ
 第3回 地域社会についての理論：農村社会学1（いえとむら）
 第4回 地域社会についての理論：農村社会学2（過疎化と高齢化）
 第5回 地域社会についての理論：都市社会学1（まちとコミュニティ）
 第6回 地域社会についての理論：都市社会学2（過密化と高齢化）
 第7回 世界と地域社会1：グローバル化とは何か
 第8回 世界と地域社会2：世界都市と都市ランキング

- 第9回 世界と地域社会3:「地域」の再編
- 第10回 「地域」社会の出現:EUの目的と歴史
- 第11回 EUにおける地域社会再編:住民自治と国家、国家連合
- 第12回 住民自治と地域社会:少子化・高齢化
- 第13回 住民自治と地域社会:過疎化・過密化
- 第14回 地域活性化活動とコミュニティ・ディベロップメント
- 第15回 グローバル化の中の地域社会定期試験

民俗文化論

民衆の文化を通して日本社会と日本文化を学ぶ

【担当教員】竹安 栄子

【授業形態】オンデマンド型授業

【授業の到達目標】

- ①「伝統」や「常識」が相対的なものであること、社会の変動の中で構築されるものであることを理解すること。
- ②「当たり前」と受け止めている正月や盆などの民俗行事が持つ意味についての理解を深めること。
- ③女性が社会で担ってきた役割や女性の地位向上に努力してきた女性たちの現実を事例を通して学ぶ。

【学位授与の方針との関連】

「日本民俗文化論」は、日本の民衆文化についての理解を深めることを目的としている。京都女子大学学位授与の方針との関連でいえば、以下の項目に該当する。「(1)[知識・理解]②人文、社会、自然など、広い教養を有している。」の中の、特に「人文」「社会」についての広い教養を養うのに貢献する。

また、本講義は、「伝統」や「常識」が相対的なものであること、社会の変動の中で構築されるものであることを理解することを到達目標としている。その意味で、学位授与の方針の「(3)[思考・判断]①主体的で批判的・合理的な思考を展開できる。」に関連している。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 I. イントロダクション
 1. 「民俗文化」とは:「民俗文化」発見から民俗学の成立まで
 2. 2つの「ミンゾク学」:「民俗学」と「民族学」

- 第3回 II. 空間の民俗1
 3. 村とムラ①「地域社会」とは:「ムラ」と「村(ソノ)」歴史的特性(ムラの行政上の変遷)地域社会としての京都
- 第4回 II. 空間の民俗2
 3. 村とムラ②
ムラの構造:鈴木栄太郎「自然村理論」
- 第5回 III. 通過儀礼1
 5. 「通過儀礼」とは
 6. 婚姻儀礼①
- 第6回 III. 通過儀礼2
 6. 婚姻儀礼②
- 第7回 III. 通過儀礼3
 6. 婚姻儀礼③
- 第8回 III. 通過儀礼4
 7. 葬送儀礼と日本人の祖霊観
- 第9回 V. 年中行事1
 8. 農耕儀礼としての正月行事①
- 第10回 IV. 年中行事2
 8. 農耕儀礼としての正月行事②
- 第11回 IV. 年中行事3
 9. 農耕儀礼から見た正月と盆・七夕
- 第12回 V. 女性と民俗
 10. 隠れた歴史:女性の生き方について私たちは何を知っているのか
 11. 戦後期の女性とくらし
- 第13回 V. 女性と民俗
 12. 女性の社会活動
- 第14回 V. 女性と民俗
 13. 戦後日本の形成:女性代議士の誕生
1946年女性参政権獲得後、初めての国政選挙で女性はどうに闘ったか

2023年度 連携プロジェクト補助事業一覧

「連携プロジェクト補助事業」は令和元年度で終了した京都市「学まち連携大学促進事業」の後継事業であり、教職員及び学生が主体的に取り組む京都市内における地域連携・社会連携活動を支援することを目的とした補助事業（費用の全額もしくは一部を補助）として継続している。活動にあたっては、活動にあたっては、下の 이슈別4領域（いずれか、または複数）および SDGs と関連付けて取り組むものとする。

◆ 이슈別4領域

- (1) 子育てと高齢者支援
- (2) 安心安全・まちづくり支援
- (3) 東山の歴史と文化
- (4) 京都の産業支援

◆ SDGs17 の目標については、下記参照。

事業名	申請者	連携先	該当するSDGsの番号 イシュー別4領域のうち該当する領域
京都刑務所との木育による造形プロジェクト 【→ P13～P14】	矢野 真	京都刑務所	 ① 子育てと高齢者支援
駅ナカアートプロジェクト — 京都をアートで元気に — 【→ P15～P16】	江口 淑子	京都市交通局 企画総務部営業推進課	 ② 安心安全・まちづくり支援
音楽アウトリーチを通じた生涯学習活動 【→ P17～P18】	坂本 光太	社会福祉法人 京都市東山区社会福祉協議会 NPO 法人「音の風」	 ① 子育てと高齢者支援
電車 / 駅構内での性暴力防止を目指して — 学生目線のポスター作成 — 【→ P19～P20】	市川 ひろみ 江口 淑子 戸田 香	京都市交通局 高速鉄道部運輸課	 ② 安心安全・まちづくり支援

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



京都刑務所との木育による造形プロジェクト

●連携先：京都刑務所

発達教育学部 児童学科 教授 矢野 真
4 回生 今川 美文

1. 事業の背景と目的

京都女子大学と京都刑務所の連携協定の一環として、造形教育ゼミ（矢野ゼミ）では、刑務所が主催する「京都矯正展」に平成 28 年度から造形ワークショップ（ワクワク木育キャラバン）による連携を行ってきた。令和 3・4 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での活動を行うことができなかつたため、木育教材としての「ひねりゴマ・ぶんぶんゴマ」「SDGs ひねりゴマ」の制作を行い、それらを東山区の保育園を中心に寄贈することにより事業を行ったが、今年度は感染症の収束により 4 年ぶりに対面での活動実施が実現することとなった。

京都刑務所との協定を通して、木工作业部が制作する木工品のデザインを学生により提案・提供した。SDGs の視点を取り入れた造形教材として、京都刑務所木工作业部で出た端材を材料として使用し、パズルのピース型をベースに世界の各地域のモチーフをデザインし、ピースを繋げることにより、“世界の繋がり”をイメージできるようなテーマを設定した。

本事業では、そのピースを用いて、京都矯正展における「ワクワク木育キャラバン」造形ワークショップを実施することにより、地域との連携を通じた学生の「保育者の専門性」としてのコミュニケーション能力の育成を図るとともに、造形による地域貢献を行うことを目的とする。

2. 事業の方法

本事業では、学生が提案したデザインを京都刑務所木工作业部がレーザー加工で制作し、その木工品を用いて対面形式のワークショップを実施した。また、デザインの考察・検討を行うため、パズルの度のデザインを選択するかを年齢層・男女別に集計した。

デザインにおいて、世界の繋がりを感じてもらおう・世界の各地域を知ってもらうため、それぞれの地域のモチーフをデザインしたパズルのピース（12 個）を考案した。

デザインからフィードバックまでの工程は、

- ①パズルのピースのデザインを 4 回生（学生・12 名）が行う
- ②そのデザインをもとに京都刑務所内の作業部門で出た端材を中心とした国産材の桧を使い制作する
- ③京都矯正展にて「ワクワク木育キャラバン」として、来場者にパズルの選択・穴あけ・やすりがけ・色付け・紐付けをしていただき、学生はその援助・声かけ・誘導を行う

- ④来場者に提供したパズルを年齢層・男女別に集計し、デザインに関しての考察を行う

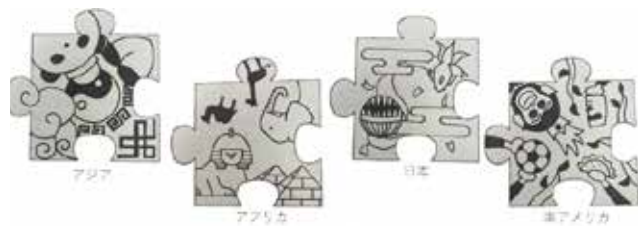
なお、今回の事業について、調査等の協力者に対し、研究の目的及びプライバシーの保護等の倫理的配慮を伝え、データの使用等について協力者からの同意を得ている。

3. 事業の成果

a. 世界の繋がりをテーマとしたデザイン

パズルのピースのデザインについて、学生の人数に合わせて世界を 12 の地域に分け、男女や年齢に関係なく好まれるようなデザインにすることを意識し、誰もが分かりやすい・イメージと合致しやすいよう、象徴的な動物やモチーフなどをイラストに表した。また、矯正展でのワークショップでは、ピースをペンダントまたはキーホルダーに加工する工程として、来場者の方それぞれに穴の位置を決めてもらう計画だったため、ピースの向きに関わらずデザイン・モチーフを楽しめるように配慮した。木材とデザインのレーザー加工を刑務所に依頼し、木育そして SDGs の定義に基づき、木工作业部での木材加工の際に出た端材による国産材の桧を用いて制作を行った。

2 日間の矯正展では、幅広い年齢層の方々にワークショップに参加いただき、それぞれ選んだピースを色付けなどで思い思いに仕上げ、ペンダントやキーホルダーにされていた。学生は来場者の方々との交流を楽しみながら、その支援や声かけを行った。



学生のデザイン原画例

b. パズルの完成

パズルのピースは繋ぎ合わせることができるようになっており、矯正展でのワークショップでは 1 人一個の制作になるものの、一緒に来場した家族や友だちと自分のピースを繋げて楽しめるようにした。



12ピース全てをあわせたパズル

c. 矯正展当日の様子

2日間の矯正展では、幅広い年齢層の方々にワークショップに参加いただき、それぞれ選んだピースを色付けなどで思い思いに仕上げ、ペンダントやキーホルダーにされていた。学生は来場者の方々との交流を楽しみながら、その援助や声かけを行った。



ワークショップでの制作の様子



ゼミ生による援助・案内の様子

d. ワークショップの取り組みと集計結果の考察

実際に矯正展に参加し、子どもから大人まで幅広い世代の方と交流をすることで、異年代での交流の仕方を学ぶことができた。

集客することを目的に、次々と入れ替わり、整理券を配布しながらのワークショップは全員が初めての経験であったため、運営の難しさやその時々の来場者・ゼミ生の状況に応じた判断力の必要性を実感した。

集計結果からは、動物のデザインが人気であること、色付けのやりやすさも考慮してデザインするべきであったことなどが分かり、来場される地域の方々のことを考えたデザイン性の大切さや好みの傾向を知ることができ、学びを深めることができた。

【種類別ランキング】

1位		2位		3位	
----	--	----	--	----	--

【男女別ランキング】

	1位	2位	3位
男性			
女性			
子ども (小学生以下)			

4. まとめ

今回の事業では、SDGsの視点を取り入れた造形・木工として、デザインの提案・提供や矯正展でのワークショップ、集計結果の考察などから地域連携活動としての新たな学びの可能性が得られた。地域の方たちと直接関わることは、地域連携をしているということの責任を感じる重要な機会であった。

また、今年度の反省から、デザインのモチーフの統一性や老若男女問わず好まれるデザインの検討、当日の運営やシフトに関する見直し・改善を行い、来年度以降のワークショップに繋げていきたい。

謝辞

平成28年度より行ってきた連携事業として、新型コロナウイルス感染症による中止を経て4年ぶりの「京都矯正展」開催にもかかわらず、提案・計画を快くお引き受けくださった京都刑務所処遇部作業部門の皆様へ厚く御礼申し上げます。

駅ナカアートプロジェクト—京都をアートで元気に—

●連携先：京都市交通局・企画総務部営業推進課

家政学部 生活造形学科 准教授 江口 淑子

1. 背景

駅ナカアートプロジェクトは 2011 年から京都にある美術系の大学と、企業、行政の声かけからはじまった。京都女子大学は 2012 年から地下鉄五条駅で参加し、今年度で 11 年目になる。コロナ後、京都市の財政が厳しく、プロジェクトに京都市の予算がつかなくなり、参加を取りやめる大学もある中、連携プロジェクト補助事業のおかげで今年度も参加することが可能になった。10 年をこえて持続しているプロジェクトであり、駅を利用される方から楽しみにしていただき、展示作業中、はげましの声を多くかけていただき、やりがいのあるプロジェクトになっている。

2. 目的

①多くの観光客が訪れる国際観光都市・京都の重要な都市装置である「京都市営地下鉄」の「駅」のイメージアップを図り、地下鉄を魅力的なものとして活性化することで、活力ある京都のまちづくりに寄与すること。②“大学のまち京都”ならではの取組として、芸術系大学の学生が中心となったアート作品の展開により、世界に誇る「文化芸術都市京都」確立への一助となること。③「学・産・官」三者の連携・交流を深め、学生に対し、京都を支える人材への成長の機会を提供すること。

3. 主催

KYOTO 駅ナカアートプロジェクト実行委員会
(8 大学、京都市交通局、文化市民局からなる委員会)

4. 実施駅及び参加校

烏丸線	国際会館駅	京都精華大学
烏丸線	五条駅	京都女子大学
烏丸線	京都駅	京都市立芸術大学
東西線	六地蔵駅	京都教育大
東西線	柳辻駅	京都橘大学
東西線	東山駅	京都芸術大学
東西線	三条京阪駅	京都美術工芸大学
東西線	太秦天神川駅	嵯峨美術大学

5. 協賛企業

株式会社イシダ、有限会社画箋堂、京都地下鉄整備株式会社、株式会社サンエムカラー、株式会社ジイケイ京都、株式会社島津製作所、株式会社ボックス画材、村田機械株式会社、株式会社リーフ・パブリケーションズ、ポノス株式会社

6. テーマ

プロジェクト全体：京都をアートで元気に
京都女子大学 五条駅：パワースポット

7. 展示期間

2023 年 11 月 10 日～2023 年 12 月 20 日

8. 京都女子大学参加学生 (全員 3 回生)

赤井 梨央、井野 柚葉、梅原 和、河邊 真衣、講武 彩乃、相馬 くる実、内藤 えみ、初田 果優、濱畑 彩、平松 結菜、松下 明野生

9. 制作過程

【アイデア出し】

6/26 プロジェクトの説明、スケジュール、展示場所、過去の展示、他大学の展示資料を見て、テーマや手法についてのアイデア出し。

7/3,5 テーマについてのミーティング。

【五条駅視察】

7/10 夕方から五条駅下見と測定。

7/21(ZOOM) テーマにそって考えてきたラフ案のすり合わせ、テーマを「パワースポット」に決定。

7/24 展示エリアによるチーム分けとチームごとのアイデア出し。

7/31 意見交換発表会に向けてのパワポ作り。

【実験と制作】

8/2 15:00-17:00 京都美術工芸大学にて参加校と協賛企業との意見交換会。

8/9 五条駅で、鳥居の廊下の実験。風車の実験。夏休み：チームごとにデータを作成する。

10/31 鳥居と灯ろうの廊下、人感センサーの実験。

11/1-5 できたデータから大型プリンターで再剥離シール紙にプリントアウト。裁断と、展示の準備、風車制作、灯ろう制作。



【展示作業】

11/7 五条駅清掃と、展示作業

11/8,9,10,13 五条駅展示作業。



【感謝状贈呈式 & ジョイントミーティング】

12/8 16:00-18:00 京都市立芸術大学にて感謝状贈呈式 & ジョイントミーティング

【撤収作業】

12/27 五条駅撤収作業



10. 展示エリア



11. 展示の様子



12. おわりに

五条駅でプロジェクトの展示期間が終わり撤収作業を終えると駅が無機質な空間に戻り、学生たちの作品が、力もち、空間を明るく元気にしていたことが実感できる。コロナの終息と円安で外国からの観光客の方が多く地下鉄五条駅を利用されており興味を持って声をかけてくれた。地域の方も毎年楽しみにしていただき、おとしよりの方も多く声をかけてくださった。遅くまで大学で作業をし、駅でも力をあわせて展示作業を行い、多くの方に喜んでいただいた経験は、学生たちが社会に出てから、何のために働くのかということを考える貴重な経験になったと思う。学生の活動を暖かく見守ってくださる地域の方、五条駅職員の方、京都市交通局、貴重なご意見を下さる他大学の関係者、協賛企業の方、に感謝いたします。地域連携プロジェクトとして支援していただきありがとうございました。

音楽アウトリーチを通じた生涯学習活動

●連携先：社会福祉法人京都市東山区社会福祉協議会・NPO法人「音の風」

発達教育学部 教育学科 音楽教育学専攻 助教 (任期付き) 坂本 光太

1. 実施の背景と目的

地域社会は現在、少子高齢化、人口減少という人口構造の急激な変化に直面している。本学が立地している京都市東山区は、この30年間で約15,000人の人口減少、0歳～14歳の人口が約2,600人減少となり少子化が進む一方、65歳以上の人口は約2,000人増加し高齢化が進んでおり、人口構造変化の際たる例の一つに数えられる。この危機は、世代間のコミュニケーションの機会を減少させ、地域社会における文化的な交流や結びつきの希薄化を招く可能性があるといえる。

「音楽を通じた生涯学習活動」後続事業である本事業は、本学の学生が、出張演奏など音楽アウトリーチ活動を行うことで、これらの世代に跨がるコミュニケーションの架け橋を提供し、地域に新しい活力をもたらすことを目的としている。学生たちは地域住民と直接関わりながら、実践的な学びを経験し、地域の文化振興に貢献することが期待される。また、このような活動を通して、学生自身も音楽の持つ力や可能性を再認識し、将来の音楽教育者としての資質を高めることができると考えられる。

さらに、本事業は、コロナ禍以後における新しい生涯学習のあり方を模索する試みでもある。対面型の活動に加え、コロナ禍で培ったオンラインやテクノロジーを活用した非対面型の活動にも取り組むことで、多様な状況下でも生涯学習の機会を提供し続けることを目指している。

2. 事業実施における工夫

- ・活動地域、場所等：京都市東山区各施設
- ・活動時期：2023年7月～2023年12月
- ・連携先組織：社会福祉法人京都市東山区社会福祉協議会
NPO 音の風

「アウトリーチ outreach」は「より遠くに達すること、通常の活動範囲から踏み出すこと」を意味する。

本事業では以下の演奏アウトリーチ活動を行った。

①音楽教育学専攻の学生のうち、声楽と管楽器を専門的に学ぶ学生(3回生)が演奏内容、ナレーション、楽器紹介、参加型楽曲などを考え、コンサートのDVDを制作し、京都市東山区の保育園、こども園、児童館、デイサービスセンターなど34の施設に送付した。(2023年7月に着手、同年12月に送付)

DVD制作にあたっては、学生たちが主体となって企画・運営を行った。まず、対象となる施設の特性や年齢層を考慮しながら、プログラムの選曲を行った。童謡、ジブリやディズニーの楽曲、J-POP、管楽器アンサンブルなど、幅広いジャンルから、多世代に親しみやすい曲目を選定した。また、楽曲の解説やナレーションを加えることで、より理解しやす

く、親しみやすい内容となるよう工夫した(写真1,2)。

さらに、演奏だけでなく、視聴者参加型の要素も取り入れた。例えば、手拍子を促したり、一緒に歌うよう呼びかけたりするなど、画面越しでもインタラクティブな体験ができるよう配慮した。加えて、楽器紹介のコーナーを設け、普段触れる機会の少ない管楽器について、その特徴や魅力を分かりやすく伝えるよう努めた。撮影・編集作業も学生たちが中心となって行った。演奏のクオリティはもちろん、画面構成や字幕の挿入など、視聴しやすさにも細心の注意を払った。完成したDVDは、各施設に丁寧に説明を添えて送付した(資料1)。

②同じく声楽と管楽器の学生(4回生)が、出張演奏会を開催した。(2023年12月21日実施)

3年ぶりとなる対面での出張演奏会は、「弥栄学区すこやか学級」にて実施された。学生たちは、昨年のDVD制作で培ったノウハウを生かしつつ、ライブならではの臨場感と一体感を大切にした演奏を心がけた。会場の皆さんと直接交流しながら、音楽を通じた温かなコミュニケーションが生まれる瞬間を体験することができた(写真3)。

演奏後には、地域の方々から直接感想をいただく機会も設けた。「皆さん喜んでおられました」「学生様の素敵な演奏とかわいい笑顔で大変喜ばしく思いました」「来年も楽しみにしています」など、多くの好意的な声が寄せられた。学生たちにとって、自分たちの活動が地域に喜びをもたらしていることを実感する貴重な経験となった。

3. 事業の成果

本事業の成果は、地域社会における音楽を介した結びつきの形成に寄与したことにある。幼児から高齢者まで、様々な年代の人々が、声楽や管楽器の演奏を通じて新たな音楽体験を享受した。特に、童謡、ジブリやディズニーの楽曲、J-POP、管楽器アンサンブルなど幅広いジャンルの選曲は、多世代にわたって親しみやすさと楽しさを提供し、地域に新たな活力をもたらした。

地域の施設に本学の学生の演奏を届けるという本プロジェクトは、元々対面開催を中心として実施されてきたが、新型コロナウイルス感染症が流行した2020年以來は、演奏に伴う飛沫への配慮からやむなく演奏DVDを制作し配布するという形をとってきた。DVD配布という形は、対面での音楽体験とは性質を異にするものの、一度に多くの人々にリーチできる点はこのプロジェクトに良い影響をもたらした。また、演奏動画という制限された状況の中で、学生が視聴者に対し、画面越しに一緒に歌うこと、一緒に手を叩くこと等を促すなど、インタラクティブ性を追求するなどの工夫も見ら

れた。画面越しに共有された音楽体験は、受け手にとって新たな形の文化的交流となったようにも思われる。

さらに、3年ぶりに実施された対面での出張演奏は、地域社会と学生たちとの結びつきを一層深める機会となった。この出張演奏を通じて、直接的な音楽の喜びと共有が再び可能となり、また学生たちには実践的な学びの場となった。

学生たちにとっても、本事業への参加は大きな学びと成長の機会となった。音楽を専門的に学ぶ学生たちが、地域社会という新たな舞台で自らの力を発揮し、音楽の可能性を広げる経験ができたことは、彼らの将来の活動に必ずや生かされるであろう。企画・運営のプロセスを通して、チームワークや責任感、コミュニケーション能力なども養われたに違いない。

本事業を通して、音楽が持つ多様な可能性と価値が再確認された。音楽は、世代を超えて人々をつなぎ、コミュニティに活力をもたらす力を秘めている。そのような音楽の力を、学生たちが地域社会で直接発揮できたことは、本事業の大きな成果であると言えるだろう。

4. まとめ

本事業では、本学の学生が、出張演奏など音楽アウトリーチ活動を行うことで、京都市東山区の多世代に跨るコミュニケーションの架け橋を提供し、地域に新しい活力をもたらした。学生たちは、DVD制作と出張演奏という2つの形態で、地域住民と直接関わりながら様々な工夫を凝らし、実践的な学びを経験しながら、地域の文化振興に貢献した。

コロナ禍という制約の中で、オンラインを活用した新しい形の音楽体験を提供できたことも、大きな成果の一つであった。対面とオンラインのそれぞれの長所を生かしながら、どのような状況下でも音楽の力を届け続けることができると実感できたことは、学生たちにとって貴重な経験となった。

音楽は、世代を超えて人々をつなぎ、コミュニティに活力をもたらす力を秘めている。本事業を通して、そのような音楽の力を学生たちが地域社会で直接発揮できたことは、大きな意義があったと言えるだろう。今後も、このような活動を継続・発展させ、音楽を通じた生涯学習の推進と、学生の主体性を育む教育活動を行っていきたい。

謝辞

連携先である、「社会福祉法人 京都市東山区社会福祉協議会」および「NPO 音の風」には、いつも我々の活動をご理解、ご協力下さり、心より感謝申し上げます。本事業の実施にあたり、両団体様から多大なるサポートをいただいた。地域に根差した両団体の活動なくして、本事業の成功はあり得なかった。改めて深く御礼を申し上げます。



(写真1) 声楽ゼミの演奏動画



(写真2) 管楽器ゼミの演奏動画



(資料1) 配付した冊子の一部



(写真3) 「弥栄学区すこやか学級」実施の様子

電車／駅構内での性暴力防止を目指して —学生目線のポスター作成—

●連携先：京都市交通局 高速鉄道部 運輸課

法学部 法学科 市川ひろみ
家政学部 生活造形学科 江口 淑子
ジェンダー教育研究所 戸田 香

目的

公共交通機関である鉄道で日常的に発生している痴漢や盗撮などの性暴力に注意喚起し、誰もが安心して利用できる環境を整える。学生は、自分たちが学んでいるジェンダーや法学などの視点から、社会で当然とされていることについても、おかしいと思うことについて問題提起し、行動することで自らが社会の一員であり、社会を変える存在でもあることを実感できる経験とする。

意義

痴漢や盗撮などの性暴力は被害者に深刻な精神的・身体的な被害をもたらすにもかかわらず、社会では重大な犯罪であるとみなされていない。こうした社会の状況下において制作されてきた従来の痴漢・盗撮の防止を呼び掛ける従来のポスターには、多くの問題点がある。まず、被害者となりうる人に対して混雑を避けるなどの注意をしたり、被害に遭ったときには「助けて」と声をあげてことを求めたりするものが多いということだ。性暴力に遭った人は、本来ケアをされるべき立場であり、他の犯罪がそうであるように被害の責任を背負う必要は無い。加えて、被害者に自衛を求めるよう訴え続けるだけでは問題解決にはつながらない。むしろ被害者自身が「自分に落ち度があったのがいけない」と感じ、自身を追い詰めることにもなりうる。

本プロジェクトでは、従来のポスターのように被害者に焦点を当てる「被害を防ぐポスター」ではなく、痴漢や盗撮などの性暴力をめぐる社会の構図について、一人ひとりが考えるきっかけとなるような「加害を防ぐ」ポスターであることを重視した。ポスターが駅や車内に掲出されることで、加害者が第三者によって「助けられている」社会、そして加害者が加害をしやすい社会からの変革に寄与する可能性に期待できる。

活動の経緯

この活動は2020年12月14日(月)に本学にて、学生9名、京都府警察鉄道警察隊隊員4名、教員3名で意見交換を実施したことから開始した。従来一般的であった被害に遭わないよう呼びかけるポスターに違和感を持った学生が、性犯罪に向き合う警察官の方々と意見交換をしたことで、犯罪現場の実情を知り、ポスターの表現で注意する点についても示唆を得た。この学びを活かすために、2021年には京都府警察鉄道警察隊及び阪急電鉄株式会社と、2022年には京阪電気鉄道株式会社の協力を得て、共同で痴漢撲滅ポスターを制作した。完成したポスターを発表す

るプレゼンテーションを行ったのちに、各交通機関の電車内・駅構内で掲出された。

そして2022年度活動メンバーであった現代社会学部現代社会学科山下遥香(4回生)、文学部史学科中村明日美(4回生)が、2023年度についても継続してポスター制作を行う意志を固めた。2023年7月には法学部市川ひろみ教授の「平和と女性」、家政学部江口淑子准教授の「デザイン実習」、ジェンダー教育研究所戸田香助教の「政策学」にて2年間の活動説明を行い、自作した募集要項を配布し2023年度の活動参加者を募集した。これに応じた11名、法学部法学科4回生1名、3回生7名、現代社会学部現代社会学科3回生1名、家政学部生活造形学科2回生2名が参加し、山下、中村を含めた13名で新たなチームとしてポスター制作に取り組むんだ。

京都市交通局との連携

京都市営地下鉄は利用者が多く、京都市の交通基盤の要を担う機関であるからこそ、痴漢・盗撮の撲滅を訴える場として適切であると考え、協力を要請した。8月には学生2名(山下遥香、中村明日美)と教員2名(市川教授、江口准教授)で京都市交通局へ赴き、活動の説明と協力を依頼するプレゼンテーションを実施し、京都市交通局との連携活動実施が決定した。

新しいメンバー13人は10月5日(木)からポスター制作に取り組み始めた。ポスター班・QRコード班・広報班の3班に分かれて、12月21日(木)の報道向けプレゼンテーション開催に至るまで毎週の木曜4・5講時に制作を行った。ポスター班は標語やポスターの構成について議論し、QRコード班はポスターに掲載するQRコード先の資料を制作した。広報班はポスターの広報やポスターを発表するプレゼンテーションの準備を進めた。

また、10月26日(木)と11月16日(木)には京都市交通局高速鉄道部運輸課の職員2名が来校され、ポスターについて率直な意見交換を行った。複数のポスター案からのポスターがより自分たちの意図が伝わるものになっているか模索した。こうして約2か月間に及んだ制作期間を経てポスターが完成した。ポスターは、京都市営地下鉄の31駅全ての駅構内と電車内の中吊りにも掲示された。なお、掲出期間は、駅構内が2023年12月22日(金)から2024年3月末まで、車内中吊りには2024年1月上旬から3月上旬までであった。

問題意識

従来のポスターは被害者に行動を求める内容のものが多くあった。私たちは、従来のポスターでも見られるように、痴漢・盗撮の問題は被害者の自己責任であるという「認識のズレ」が日本社会に蔓延していると分析した。また、加害者・被害者ではない第三者を、被害者に寄り添う第三者・傍観する第三者・加害者の肩を持つ第三者の3パターンに分類した。その中でも傍観する第三者と加害者の肩を持つ第三者による、被害者へ責任転嫁をする内容の言葉が性暴力を助長すると考えた。そこで対象を社会全体とし、「被害を防ぐポスター」ではなく、「加害を防ぐポスター」に転換することを目指した。

ポスターの内容

ポスターには「被害者責めてませんか」という標語とともに、4台のスマートフォンが描かれている。これは特定の誰かではなく、右側の3台の黒いスマートフォンには、痴漢・盗撮に遭った被害者をさらに責める言葉が書かれている。左の赤い



スマートフォンには、「痴漢見かけたら」「痴漢から助けたい」の言葉とQRコードを掲載した。このQRコードを読み込むと、プロジェクトメンバーが作成したPDF形式の資料「電車での性暴力について一緒に考えてみませんか？」にアクセスできる仕組みとなっている。

学生による主体的な取り組み

本プロジェクトは学生が社会の課題に着目し、解決をめざして主体的に取り組むことに意義がある。それぞれポスター制作やQRコード資料の制作、プレゼンテーションの準備などをチームで協働して行う過程で、性暴力撲滅のた

めに必要なアプローチについて主体的に考える機会となった。さらにプレスリリースやメディア関係者を招いた発表会の実施など、様々な立場の人や組織と連携して活動した。これにより学生は、社会の一員として課題解決の具体策を実践する「アクター」になったと実感することができた。さらに、性暴力について考える中で、性暴力は被害者個人の問題ではなく、社会全体で考えなければならない問題であることを感じるなど、学びが深まった。

反響

ポスタープレゼンテーションの際には、各社報道機関の取材があり、京都新聞、京都民報で報道された。学生は、京都市営地下鉄の方々や先生方、そして学生同士で何度も議論を重ねることで自分たちが伝えたいことは何かをより深く考えることができた。また、この取り組みがメディアにも取り上げられ、自分たちが感じる日本社会の違和感に一石を投じ、平和のためのアクターになるという経験は、大きな自信につながった。



成果

本プロジェクトは学生が社会の課題に着目し、解決をめざして主体的に取り組むことに意義がある。参加した学生は、それぞれポスター制作やQRコード資料の制作、プレゼンテーションの準備などをチームで協働して行う過程は、性暴力撲滅のために必要なアプローチについて主体的に考える機会となった。さらにプレスリリースやメディア関係者を招いた発表会の実施など、様々な立場の人や組織と連携して活動した。これにより学生は、社会の一員として課題解決の具体策を実践する「アクター」になったと実感することができた。さらに、性暴力について考える中で、性暴力は被害者個人の問題ではなく、社会全体で考えなければならない問題であることを感じるなど、学びをさらに深めることができた。



シンポジウム・セミナーを 対面やオンラインで開催

令和5年度京女ラウンドテーブル(報告)

1. 日時 令和6年3月8日(金) 13時~14時(Zoom)
(14時~15時 連携プロジェクト報告会・Zoom)
2. 内容
ご挨拶 京都女子大学副学長・
地域連携研究センター長 中山玲子
案件
令和5年度京都女子大学地域産学連携講座の報告
令和5年度文科省委託事業リカレント報告
大学の取り組みの点検・評価(意見交換)
その他

今年で8回目となる京女ラウンドテーブルをオンライン(Zoom)で開催した。参加者は9機関9名であり、報告事項についての活発な意見が交わされた。

主な意見として、「京都女子大学の学生は自立した学生が多いのでアントレプレナーシップが養成されるプログラムがあればよいのでは」「データサイエンスと心理学を掛け合わせた活動ができれば特性が出せると思う」「データサイエンスの能力を備えた人材は中小企業にとって最も欲しい人材である。とがった人材の輩出を望む」等の意見が出された。

学部教育やリカレント教育プログラムに「志を育む」リーダーシップ養成のプログラムがあれば、将来起業した際に有益であることも指摘があった。

14時から、引き続きオンラインで連携プロジェクト報告会が開催され、4件の報告がなされ、25名が視聴した。「学生にも意味のある活動で、着眼点が素晴らしい。」「どのプロジェクトも地域に寄り添ったもので学生のアイデアが生かされていた。」等、好評を博していた。

女性のためのリカレント推進協議会第5回セミナー 「アントレプレナーとリーダーシップ」

日本女子大学、関西学院大学、明治大学、福岡女子大学、京都光華女子大学、山梨大学、椋山女学園大学、本学が、「女性のためのリカレント教育」の課題解決に向け連携し、社会的な認知を得るための啓発活動や関係諸官庁、諸方面に理解とご支援を願う活動を展開する母体となるべく「女性のためのリカレント教育推進協議会」を結成している。また、令和4年度からは、日本女子大学から会長校を本学が引き継いでいる。

本年度シンポジウムは(大同生命株式会社ご寄付)は、「アントレプレナーとリーダーシップ」をテーマに第5回目としてオンラインにて開催した。

開催日時：2024年2月16日(金) 13:00~15:30

第1部：基調講演：人生が最高に輝くアントレプレナー
シップとリカレントの極意

河村 晴美氏(叱りの達人協会会長/
有限会社ハートプロ代表取締役社長)

第2部：パネルディスカッション：リーダーシップの育成

モデレーター：中山玲子(京都女子大学副学長・地域
連携研究センター長)

パネリスト：大津 美奈子(関西学院大学ハッピー
キャリアプログラム修了生)

川坂 瑞穂(京都女子大学リカレント
教育課程修了生)

高橋 美佐子(日本女子大学リカレント
修了生)

第3部：参加大学の2023年度の活動報告

受講後のアンケートでは、第1部の河村晴美氏の講演へは「パワフルなプレゼンテーションで元気をもらった。」「順風満帆なキャリアを持つように見える方でも、紆余曲折する経験が糧になっているのが分かり、新たなチャレンジをしたい。」と参加者から、今後のキャリアへの挑戦を決意する感想が寄せられた。

第2部のパネルディスカッションでは、「今後、自分たちの向かうべき道を知ることができた。」「迷っているなら、行動あるのみ。と、3人のパネリストのメッセージが心に響いた。」と参加者に共感を得る感想が多く見られた。

第3部のそれぞれの大学への取り組みへは、たいへん役立つ情報を得られたとの意見が多く寄せられ、各大学のそれぞれの活動を確認できる機会となった。



京都女子大学 リカレント教育課程シンポジウム「働きながら学ぶ」

本学のリカレント教育課程は、2023年度に6年目を迎え、341名にのぼる受講生を輩出し、女性のエンパワーメントに貢献している。本年度は、「働きながら学ぶ」をテーマに、一般市民、修了生、受講生が参加できるシンポジウムを対面で学内にて開催した。

開催日時：2023年12月16日(土) 13:00～14:30

第1部：基調講演「リカレントとキャリア」

本学客員教授 池上彰

「文科省委託事業京都女子大学リカレント教育課程の報告」

本学副学長・地域連携研究センター長 中山玲子

第2部：パネルディスカッション テーマ：「働きながら学ぶ」

モデレータ：池上彰

パネリスト：大和ハウス工業(株)常務執行役員 石崎 順子
オムロン(株)取締役執行役員専務 CHRO 富田雅彦
京都女子大学リカレント教育課程修了生 堀田寛子
京都女子大学連携推進課課長 小椋幹子

第1部は本学地域連携研究センター客員教授 池上彰先生のリカレント体験や海外での取材体験など豊富な引き出しから繰り出される軽快なトークに、一同が引き込まれた。第2部のパネルディスカッションでは、企業の代表やリカレント修了生が登壇し、学ぶことの大切さをリカレント経験者の話から実感することができた。特に池上先生と登壇者が本音で語り合う場面では大いに盛り上がりを見せた。



修了後に、リカレント修了生同士が集える懇談ルームを設けたところ、久々に顔を合わせ、近況を報告し合うとても貴重な機会となった。



京都女子大学 連続防災講座「男女共同参画から考える防災シリーズ」(全3回)

防災・減災、災害に強い社会の実現には、女性が防災の意思決定過程や現場に主体的に参画し、女性と男性が災害から受ける影響の違いなどに十分に配慮された災害対応が行われることが必要」とされている。(「女性の視点からの防災・減災の推進について 大臣メッセージ」令和3年6月11日 内閣府より)。本学では、公益財団法人京都市男女共同参画推進協会(京都市男女共同参画センター ウィングス京都) 久保 智里氏を講師として迎え、男女共同参画から防災を考えるきっかけとして、防災シリーズ連続講座(全3回)を開催した。

・第1回：7月22日(土) 10:00～11:30

ジェンダーの視点で防災を考える。

日常にある男女共同参画の課題と災害時に女性が直面する不安や困難について学んだ。

・第2回：8月5日(土) 10:00～11:30

・第3回：8月26日(土) 10:00～11:30

「安心・安全な避難所」「男女共同参画な備え・運営」「衛生・健康を守る」「多様な視点で備える」の4つのテーマについてグループで話し合い、災害時に発生するさまざまな困りごとへの対応や日常の備えを具体的に考えた。グループディスカッションでは『きょうとみんなの防災カード』を活用。



※『きょうとみんなの防災カード』は、一人ひとりの暮らしに即した災害への備えや避難所の運営に欠かせない、男女共同参画の視点を取り入れた「防災カード」である。トランプ形式のカードに書かれた「問い」について話し合うことで、災害時に発生するさまざまな困りごとへの対応や備えを具体的に考え、共有することができる。

最初は、防災とジェンダーの視点がどう結びつくのか、具体的に理解できなかった参加者たちも、災害時にどんな困りごとが起こり、どう解決するか等、カードを使いながらディスカッションする中で、避難所、救援物資の配布、障がい者へのフォローなど災害時にこそ、ジェンダー視点が欠かせないことを実感できた。災害時になってからでは遅い、日頃から地域状況を共有し、コミュニティ内でのコミュニケーションが必要である、災害訓練時にも、女性は炊き出しなど補助的な役割を担う事が多いが、女性が訓練のリーダーとなり備蓄品管理などもっと意見を述べていくことも必要である等、ワークショップでは、活発な意見交換がされ、参加者一人一人が防災について考える貴重な機会となった。

京都女子大学が提供する学びの場 (公開講座/生涯学習講座/リカレント教育課程)

京都女子大学では、大学の構成学部の専門性に応じた講座を広く提供するため、一般の方を対象に以下3つの学びの場を設けている。

①公開講座 (対象：20代～男女 無料)

京都女子大学では、各学部学科の学問領域や附属施設(研究所)の研究領域にもとづいた講座や学外のゲストスピーカーを招いた学術的な「公開講座」を本学で実施。本年度は、シリーズでの公開講座も実施した。

②生涯学習講座 (対象：20代～男女 有料)

本学の教育・研究成果を社会に還元し、広く生涯学習の機会を提供するため、多様なテーマの連続講座「生涯学習講座」(有料・事前申込制)を開講。

③リカレント教育課程

2023年度は社会人の学び直しの場合として、以下3つのコースで講座を開講。

・キャンパス平日通学コース

(対象：20代～女性のみ 有料)

・女性リーダー・管理職育成コース

(対象：20代～女性のみ 有料)

・KNF ウィミズカレッジマネジメント入門コース

(対象：20代～女性のみ 2023年度に限り無料)

2023年度 学部/学科主催の公開講座

講座名	講題	開催	講師	開講形態
<前期>				
食物栄養学科公開講座 子どものスポーツについて考える	総合司会・はじめに	7/1(土)	本学准教授 坂手 誠治	オンライン
	トレーニング科学から見た子どものスポーツ活動		桐蔭横浜大学 大学院 教授 桜井智野風	
	スポーツ栄養学から見た子どものスポーツ活動		相模女子大学 栄養科学部 教授 柳沢 香絵	
	スポーツ歯学から見た子どものスポーツ活動		大手前短期大学 歯科衛生学科 講師 白水 雅子	
教育学科教育学専攻公開講座 新時代の教師教育と教育学 研究を切り拓く	これからの日本に求められる教師と学校	8/1(火)	熊本大学大学院・特任教授 前田 康裕	対面
	ディスカッション・質疑応答		本学教授 森 久佳	
<後期>				
人文学会公開講座 なぜこの世の中に仏教が必要 なのか? : 社会倫理と環境保 全	仏教と哲学の対話が環境保全へ貢献できること	10/18(水)	本学 専任講師 リュウシュ マルクス	対面
	浄土真宗の世界観と社会倫理		龍谷大学教授 井上 善幸	
国文学科公開講座	本文だけが近代文学か? 一口絵・挿絵に込められた秘密―	11/6(月)	東京大学大学院(総合文化 研究科 超域文化科学専攻 比較文学比較文化コース) 准教授 出口 智之	対面
	『時代不同歌合』再考		国文学研究資料館 名誉教授 寺島 恒世	
英文学科公開講座	ミュージカルから学ぶ生きた英語―上演指導による 実践的英語教育の充実―	11/16(木)	本学文学部英文学科 教授 日高 真帆	対面
	T.S.エリオットの詩劇『寺院の殺人』の変遷―大 聖堂から劇場、映画館へ		本学文学部英文学科 教授 佐伯 恵子	

2023年度 学部 / 学科主催の公開講座<後期>つづき

講座名	講題	開催	講師	開講形態
生活デザイン研究所公開講座 養源院と將軍様御先祖、浅井長政	養源院と將軍様御先祖、浅井長政	11/18(土)	筑波大学人文社会系 准教授 山澤 学	対面
	養源院にて堂内見学		養源院 副住職 吉水 行友	
史学科公開講座	中世のスコットランド人とは誰かー「アープロース宣言」(1320年)が語る虚像と実像ー	11/22(水)	本学文学部史学科 准教授 西岡 健司	対面
	地域の人たち・学生たちと作った馬町空襲被害地図ーその作成過程と新たな史料ー		本学文学部史学科 教授 坂口 満宏	
児童学科公開講座 現代人形劇の100年～人形劇もつと!こどもへ、おとなへ、未来へ～	現代人形劇の100年から見えてくる人形劇の魅力	11/25(土)	人形劇の図書館館長・人形劇団トロッコ主宰師 湯見 英明	対面
	人形劇が子どもにもたらすもの		本学発達教育学部 児童学科 教授 松崎 行代	
栄養クリニック公開講座 「正しく知ろう!認知症とその予防」	認知症と食について～楽しく学ぶ脳と栄養の関係～	12/2(土)	本学家政学部食物栄養学 科 教授(栄養クリニック 指導教員) 井戸 由美子	対面
	認知症の予防と治療最前線 ～知ってクオットク認知症～		特定医療法人 大阪精神 医学研究所 新阿武山病院 副診療部長/ 大阪府認知症疾患医療セン ター センター長 森本 一成	

公益財団法人奈良屋記念杉本家保存会連携事業京町家特別公開講座

講座名	講題	開催	講師	開講形態
シリーズ第36回 女性が学ぶ 京の町屋文化2023	京町家 有形・無形の文化を後世に繋ぐこと	10/24(火)	公益財団法人奈良屋記念杉 本家保存会 事務局長 杉本 節子	対面
	親鸞の手紙を学ぶー臨終の善悪をば申さず		本学 法学部教授 西 義人	
シリーズ第37回 女性が学ぶ 京の町屋文化2023	文化財を守り伝えるために(杉本家住宅の取りくみ)	11/29(水)	公益財団法人奈良屋記念杉 本家保存会 学芸部長 杉本 歌子	対面
	伏見の商家 齊藤家の話 ～齊藤家十二代目として～		齊藤酒造株式会社 代表取締役会長 齊藤 透	
シリーズ第38回 女性が学ぶ 京の町屋文化2023	京の年中行事とくらし	2/6(火)	公益財団法人奈良屋記念杉 本家保存会 事務局長 杉本 節子	対面
	現代学生気質		京都産業大学日本文化研究 所 客員研究員 吉澤 健吉	

2023 年度 その他シリーズでの講座一覧

講座名	各回の講題	開催	講師	開講形態
男女共同参画から考える防災シリーズ	①ジェンダーの視点で防災を考える	7/22(土)	公益財団法人京都市男女共同参画推進協会 (京都市男女共同参画センター ウィングス京都)	対面
	②ワークショップ『きょうとみんなの防災カード』 ①	8/5(土)		
	③ワークショップ『きょうとみんなの防災カード』 ②	8/26(土)		
管理栄養士・栄養士有資格者のための学び直し講座	①現在の栄養行政・健康づくり対策 ②生活習慣病の予防と健康長寿の延伸 ③介護予防と健康寿命の延伸	8/26(土) 同日で3講 時に分けて 開催	本学副学長、本学栄養クリニック・副栄養クリニック長、本学地域連携研究センター長	オンライン

参加者の声

2023 年前期 公開講座

食物栄養学科公開講座

運動、栄養、歯科から子どものスポーツについて考える

- ・歯、口腔にかんする講義は想定以上に、勉強になりました。子どものスポーツ活動に留まらず、生涯に渡って非常に大事なことで、スポーツをしている子どもに対してのみならず、家族全員を対象に参考にしたいと思えます。
- ・スポーツ経験ないので我が子が何をしてあげられるのか見当もつかないと困っていたところ、今回の講演を新聞で知りました。素人にも分かり易い説明とパワポ資料に感謝しています。他覚的視野で子どもや家族のサポートをする方法を学ぶ必要があることもわかりました。たくさん気づきを頂きました。

2023 年後期 公開講座

国文学科公開講座

本文だけが近代文学か？——図絵・挿絵に込められた秘密——

- ・近代の絵と小説の関係については初めて知ることばかりで驚いた。あまり近代小説について知らなくても分かりやすい説明であった。
- ・素晴らしい研究とはどのようなものを指すのかということが講座を通してよく分かり、内容面は勿論ですが、研究の糸口となるものや思考の手順、聴き手に伝わりやすいような説明の仕方・順序など総合的にとても勉強になる実りある時間となりました。

人文学会公開講座 なぜこの世の中に仏教が必要なのか？

社会倫理と環境保全

仏教と哲学の対話が環境保全へ貢献できること

- ・講座を受け、自身にできることは直接的にないかもしれないが、関心を持つこと対話することの大切さを宗教的視点から知ることができ大変勉強になった。

英文学科公開講座

ミュージカルから学ぶ生きた英語—上演指導による実践的英語教育の充実—

- ・海外の演劇を通しての英語教育の一面を知ることができました。
- ・演劇を通じた英語は機械的に単語や文法を覚えて学ぶものとは異なり、表現するために取り入れる為深い理解ができると分かり面白かった。

史学科公開講座

中世のスコットランド人は誰か

—「アープロース宣言」(1320年)が語る虚像と実像—

- ・専門的な分野について大変分かりやすく説明頂き理解しやすかった。
- ・知らなかった事が多く在りましたが、だからこそ新鮮で学ぶことの楽しさを再認識しました。

児童学科公開講座 現代人形劇の100年

～人形劇もっと！こどもへ、おとなへ、未来へ～

現代人形劇の100年から見えてくる人形劇の魅力

- ・人形劇の歴史について学んだことが無かったですごく面白く感じました。
- ・人形劇がこどもに与える影響・効果・味わい・楽しみ・魅力がよく分かり嬉しくなりました。
- ・動画環境に慣れているこどもに達し、人形劇は今でこそ良い影響と反応を生む気がします。

栄養クリニック公開講座「正しく知ろう！認知症とその予防」

認知症と食について～楽しく学ぶ脳と栄養の関係～

- ・認知症の多様な病態と具体的な支援について知ることができて良かったです。脳の老化は日々感じます。ご提唱の食生活や運動習慣の取り組みにコツコツ向き合っていきたいと思っています。
- ・食と運動をきちんとすること、自分自身の体を責任もって対応することの大切さをありがとうございます。認知症の色々な医療方法があると知れて大変良かったと思います。両先生のお話がとても分かりやすく楽しい講義でした。

○杉本家とは

重要文化財の杉本家は、綾小路通りに面する杉本家住宅は、京都の中心部にありながら、江戸以来の店の構えと表屋造りの大規模な町家構の典型を示し、江戸時代に熟成された京大工の技量が遺憾なく発揮され、技術性、意匠性共に高い評価を受けています。また2020年より本学の新たな学びの拠点として、杉本家住宅附旧米蔵を活用する【京都女子大学 杉本家 KOMEGLA キャンパス】をスタートしています。



杉本家



講座風景

2023年度生涯学習講座＜前期＞

講座名	講題	開催	講師	開講形態
＜前期 6月～8月開催＞				
京都画壇の近代化 竹内栖鳳作品の核心	① 栖鳳「羅馬図」(M36年) 第5回内国勲業博覧会出品作品について	6/22(木)	本学名誉教授 廣田 孝	対面
	② 栖鳳「ベニスの月」(M37年) 日英博覧会 (M43年) 出品作品について	6/29(木)		
	③ 栖鳳「雨」(M44年) 第5回文展出品作品について	7/6(木)		
摂関時代の貴族と軍事	① 長保5年(1003)「平維良の乱」	6/23(金)	本学宗教・文化研究所 客員研究員 本学名誉教授 野口 実	対面
	② 寛仁3年(1019)「刀伊の入寇」	6/30(金)		
	③ 長元元年(1028)「平忠常の乱」	7/7(金)		
いつまでも、いくつになっ ても よい姿勢	① 良い座り姿勢・立ち姿勢とは	6/27(火)	本学 地域連携研究センター 客員研究員 原田 奈名子	対面
	② 姿勢がいいと呼吸もいい	6/27(火)		
	③ 良い姿勢・良い呼吸の恩恵と方法	6/27(火)		
親子でつくる木のおもちゃ ー木育のすすめー	① 木について知ろう ー木のおもちゃをデザインするー	8/3(木)	本学教授 矢野 真	対面
	② 具体的な道具を使ってつくりよう			
	③ 接着や仕上げを考えてつくりよう			
親子で作る染色トートバック	① 生地に染色(模様付け)	8/5(土)	本学教授 榎本 雅穂	対面
	② 生地の整理、縫製		本学教授 渡邊 敬子	
	③ 縫製・仕上げ		本学教授 青木 美保子	

2023 年度 生涯学習講座＜後期＞

講座名	講題	開催	講師	開講形態	
＜後期 10～2月開催＞					
ヴィンコ・グロボカールの音楽	①グロボカールについて	1/20(土)	本学教授	坂本 光太	オンライン
	②楽器法について				
	③社会批判の音楽				
いつまでも、いくつになってもよい姿勢	①良い座り姿勢・立ち姿勢とは	10/31(火)	本学 地域連携研究センター 客員研究員	原田 奈名子	対面
	②姿勢がいいと呼吸もいい	11/7(火)			
	③良い姿勢・良い呼吸の恩恵と方法	11/14(火)			
伝記で出会う親鸞の教え	①親鸞伝の世界	11/9(木)	本学講師	リュウシュ マルクス	対面
	②覚如の『御伝鈔』に学ぶ	11/16(木)			
	③倉田百三の『出家とその弟子』に学ぶ	11/30(木)			
フランス人音楽家と日仏文化交流：戦後復興期を中心に	①フランス人ピアニストの競演： ラザール＝レヴィとコルトー	11/10(金)	本学教授	田崎 直美	対面
	②フランス人指揮者の来日： マルティノンとフルネ	11/13(月)			
	③大阪国際フェスティバル： クリュイタンスとパリ音楽院管弦楽団	11/17(金)			
イスラームの考え方	①イスラームの興り	2/8(木)	本学教授	谷口 淳一	対面
	②さまざまなイスラーム	2/15(木)			
	③性をめぐる問題	2/22(木)			
透明人間説話を読む	①透明人間に犯される女たち （『打聞集』第13話）	2/10(土)	本学教授	中前 正志	対面
	②鬼の死体から奪った隠れ蓑 （『因縁抄』第20話）	2/17(土)			
	③ Back to the 不透明人間 （『今昔物語集』巻十六第32話）	2/24(土)			
大乘仏教の興起と東アジア的展開 －『華嚴経』を中心に－	①『華嚴経』とはどのような経典か	2/13(火)	本学准教授	中西 俊英	対面
	②中国における『華嚴経』解釈とその展開	2/20(火)			
	③『華嚴経』と東大寺	2/27(火)			

参加者の声

2023 年前期 生涯学習講座	2023 年後期 生涯学習講座
<p>A: 京都画壇の近代化 竹内栖鳳作品の核心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画家の制作に対する思考をかきまめるような内容でたいへん楽しく受講することができました。興味深く更に知りたいと思いました。 ・とても興味深く引き込まれるように拝聴しました。事前にもっと勉強しておけばと少し悔やんでいます。 ・竹内栖鳳の時代の日本が作品を見る機会をよくあるのですが、ただ観るだけでした。その時代の日本画に対する考え方や新聞記事での意見を知ることとおもしろく、当時の京都画壇の様子が想像できました。感興という言葉に感化されました。 	<p>B: いつまでも、いくつになっても よい姿勢</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生の技術先生の技術・親切的な指導力に感謝。「姿勢」の題目で申し込みましたが、第一回目で長年悩んでいた肩こりが改善され、第二回目で足の痛みで数年の悩んでいたのが改善され、もうビックリしています。マッサージ、整体で解消されなかったのに。 ・講座を受講した目的が姿勢の見た目を変えればぐらいの気持ちで受講しましたが、受講しているうちに自分の体と対話し、体に意識を向ける機会に出会え前向きになれたことに感謝いたします。今の自分と向き合い手入れをしてやることで、心身ともに若くありたいと思いました。
<p>B: 摂関時代の貴族と軍事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摂関時代から院政期にかけて時代の大きな変り目なのに歴史の授業ではあまり取り上げられてこなかった記憶があり大変興味深く拝聴しました。 ・京都女子大学で講座がある事は知っていましたが、初めて受講できて良かったです。 ・平安時代中頃の軍事情勢と中央の貴族と各地の武士との結び付きについて知る事ができて大変面白かった。 	<p>C: 伝記で出会う親鸞の教え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とてもいい講座でした。これからの読書生活を多く得たように思います。 ・この講座に参加し、初めて親鸞や法然の本や資料を読んで少しお2人の人となり生き方を知りました。勉強のきっかけを与えていただきありがとうございます。
<p>C: いつまでも、いくつになっても よい姿勢</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原田先生のハツラツとした言動に刺激を受けました。 ・立体模型を用いてわかりやすかった。サボりぐせをつけないように努めます。今回の講義はとてもパワーをいただきました。メンタルにも関係しますね。 ・長年のデスクワークの仕事で首こりがひどく色々な記事を読んで出来そうなことを実践していました。骨格からのアプローチは初めて学んだのでとても興味深かったです。ただ話を聞いただけの講座ではなく実際に体験できたのが良かったです。 	<p>D: フランス人音楽家と日仏文化交流：戦後復興期を中心に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味のある分野に偶然出会って、通常の生活では見聞することのない貴重な資料・音源など、感謝しています。先生のお人柄というか、おだやかな話し方で、わかりやすく充実した時間をすごすことができました。ありがとうございました。 ・日常であまり関わることのない戦後の音楽の歴史を知り、興し良かったです。何歳になっても勉強はいいものです。
<p>D: 親子でつくる木のおもちゃ 一木育のすすめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発想を私だけでは形に出来ない所を学生さん達にアドバイスいただき完成する事が出来、大変満足です。 ・大学の設備ならではの高度な機械が使える満足です。お手伝いの学生さんが親しみやすく大変助かりました。 ・たくさんのおもちゃを自由に作成する事ができ子どもの自主性を重視し進めることができました。 	<p>E: イスラムの考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イスラムの興りからわかりやすく話して頂き、良かったです。基本的なところから知らない事が多く、これからのイスラムに対する理解の助けになると思います。 ・3回の講座でしたが興味深く楽しく受講いたしました。ありがとうございます。今まで「イスラム」についてはほとんど勉強をしたことがなく、とてもわくわくしました。三回では短く是非もう少し回を増やしてもらいたい。
<p>E: 親子でつくる染色トートバッグ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものペースに合わせて学生の方が上手にフォローして下さり、終始楽しく作成することができました。 ・はじめてのミンや染まで普段体験できないことができました。 	<p>F: 透明人間説話を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・透明人間というどちらかといえば、奇抜なテーマに興味を惹かれました。古今東西、人間の欲望というもののおかしみ、悲しみを感しました。学問として成り立つところにも感銘を受けました。とてもおもしろかったです。 ・古典と近代でのとらえ方の変化もおもしろく感じた。学生時代から30年を経て古文を読めたのが楽しかった。ぜひまた中前先生の講座があれば参加したいと思います。
	<p>G: 大乘仏教の興起と東アジア的展開 -『華嚴経』を中心に-</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難解な内容でしたが、興味深く拝聴させて頂きました。 ・仏教再入門第1歩と思って受講させて頂きました。沢山の資料に圧倒されています。楽しかったです。

講座のようす



B: 摂関時代の貴族と軍事講座風景 (前期)



D: 親子でつくる木のおもちゃ 一木育のすすめ 講座風景 (前期)



E: 親子でつくる染色トートバッグ講座風景 (前期)



G: 大乘仏教の興起と東アジア的展開 -『華嚴経』を中心に- 講座風景 (後期)

「いつまでも いくつになっても よい姿勢」

地域連携研究センター客員研究員 原田 奈名子

1. 姿勢とファッション

前期のことです。皆さんの服装のお色が等しく「黒・グレイ・紺・茶」等の暗いものでした。そこでニューヨーク生まれのアイリス・アップフェルさん（当時102歳、2024年3月1日ご逝去）のファッションを紹介致しました（写真上）。2019年「ユニクロ」のCMに出演されたので存じの方もいらっしゃるかもしれません。

暗い色は“目立たないように”“無難でそこそこ”の意識の表れともいえましょう。そこで、姿勢を整え、『どうよ』と打って出ましようときれいな色への挑戦を提案いたしました。もうお一方は80歳の中国人男性モデルの王徳順さん。姿勢と動きに注目です。（写真下左）

私自身も鼓舞すべくピンクや花柄のパンツで臨みました。（写真下右）皆さん、翌週から明るい色になりましたよ。



▲写真1



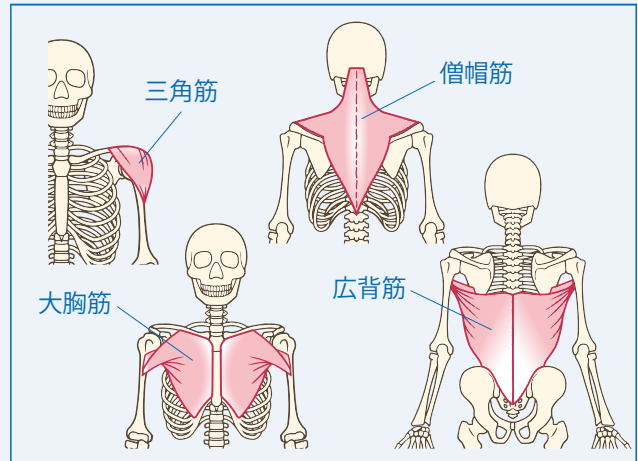
▲写真2

2. 腕が高く上がる、腕の動く範囲が広い、呼吸を深く大きくできる

後期はたくさん腕を動かしました。腕の骨は、肩甲骨に着いています。肩甲骨は肋骨の上に載っていて6方向に動きます。腕が高く上がる時、肩甲骨の下端は前から触れ得るほど外に張り出すように上方に回旋します。肘を伸ばして高く上げるにはこの上方に回旋する動きを促進しなければなりません。

肩甲骨は肋骨の上に載るように在って様々な筋肉が着いています。だから腕がいろんな方向に動くとき肩甲骨についている筋肉が伸びたり縮んだりします。これらの筋肉が肋骨や背骨に着いているので、結果、背骨の動きもよくなります。

下図は講座中の説明に用いた肩回りの主な筋肉の図です。腕を動かすには、三角筋、大胸筋、僧帽筋（俗称肩凝り筋）、広背筋（右端、背骨の下の方から始まって、肩甲骨の下端にもついで、腕の内側に停止します）らをたくさん使う必要があります。



呼吸も同じです。肋骨の間にも筋肉があり、呼吸でこれらの筋肉を動かします。息を吐くとき背骨は伸びます。大きい呼吸が背骨の動きをよくします。横隔膜をマッサージしたり腕を大きく動かしたり、大きい呼吸をすることは背骨の柔軟性を高め、良い姿勢づくりにとっても大変効果的です。

いきなり背骨を動かすより、安全で効果的なやり方です。

帰りがけに「肩凝りがとれた」「膝が痛くなくなった」等のおしゃべりが聞こえてきました。嬉しいかぎりです。

3. 紐をまく

写真のようにからだに紐を巻いていただきました。参加者全員お一人あたり4本を巻いていただきました。背中の

バッテン巻きは胸が開く感じが、足指の場合は足が軽く感じられたり膝が楽に曲がったりします。これはからだ中に点在する感覚受容器に紐が触れることによって感覚が覚醒し、筋肉や関節の働きが促進されるからです。初回にお渡しして、ご自宅で続けていただきました。股関節の動きにも効果がありました。



骨盤と背骨の骨格モデルを熱心に見入る方々



腕を高く上げるための様々なワーク実践中



▲写真3

▲写真4

紐のまきかた

ゆるっと、巻くのが大事!

上：ピッタリ巻き、姿勢に変化なし

下：ゆるっと巻き、姿勢改善

右の女性くらいゆるっと巻きます。

【出典】

・写真1：女性モデルのアイリス・アプフェルさん
『ELLE』海外セレブのファッションスナップ

引用元 URL:

<https://www.elle.com/jp/fashion/celebstyle/g37204942/iris-apfel-100th-birthday210829/> (引用日：2024年5月10日)

・写真2：ランウェーを歩く王徳順氏 (写真:Quan Yajun/The New York Times) (引用日：2024年5月10日)

・写真3：「日々是成長」(2016年9月28日画像)

引用元 URL:

https://pds.exblog.jp/pds/1/201609/28/76/a0124276_07493314.jpg (引用日：2024年5月10日)

・写真4：オレンジページ net 信じがたい!けどホントに効く!!
ひも1本でできる肩こり解消法とは

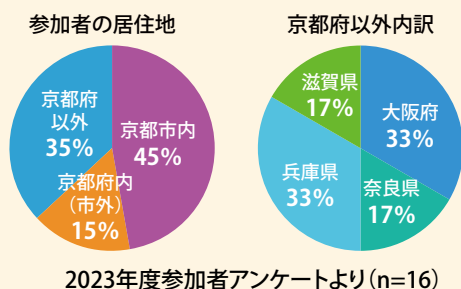
引用元 URL:

<https://www.orange-page.net/ymsr/news/daily/posts/809> (引用日：2024年5月10日)

2023年度参加者アンケートより 連携推進課 / 地域連携研究センター

「いつまでも、いくつになっても良い姿勢」は、2018年より実施され、人気講座となっている。2023年度の参加者アンケートでは「パワフルな先生の指導で元気をもらった。」「先生の技術・指導力に感謝する。」といった講師の人柄や指導法への評価を多くいただいた。また、「骨格モデルに触れ、体の構造を理解できた。」「日常生活で、簡単にできる運動を知ること出来たので、継続したい。」「整体で治らなかった肩こり、足の痛みが解消された。」など参加による具体的な知識の向上、メリットを上げる意見も多く寄せられた。

開講以来、リピート率の高い講座であるが、京都府外の近畿圏から3割以上が参加されている。今後もアンケートなどを通じ改善を加えながら、参加者に評価をいただける講座を継続的に提供したいと考えている。



リカレント教育課程

2023年度 リカレント教育課程概要

2023年度も、学ぶ目的に合わせた3コースを開設。

本学独自プログラムとして6年目を迎える「キャンパス平日通学コース」に加え、昨年度受講生からのニーズ、評価が高かった「女性リーダー・管理職育成コース」を2023年度からは、独自コースとして開講した。令和5年度文部科学省女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援事業として、本年度は「マネジメント入門コース」を開講し、学ぶ目的に合わせて選べる3コースの開設が実現できた。

1. コース別概要（表1）

	キャンパス 平日通学 コース	女性リーダー・ 管理職育成 コース	マネジメント入門 コース
受講時間数	120時間履修証明プログラム	60時間履修証明プログラム	60時間履修証明プログラム
メインターゲット	<ul style="list-style-type: none"> キャリアブランクのある女性 育児休暇中の女性 	<ul style="list-style-type: none"> リーダー候補（ポテンシャル層） 管理職の女性 	<ul style="list-style-type: none"> 地域組織（町内会、自治会、PTA等の役員） NPO法人のリーダー 企業等でリーダーあるいは管理職を目指す女性（ポテンシャル層含む）。
コースの概要	パソコン、簿記等、現在必須の基礎的なビジネススキルを身につけ、キャリアブランクから就業を目指す。	ポテンシャル層に必要とされるマネジメントスキルを身につけ、SDG sで求められる「サーバントリーダーシップ」を育成する。	組織で必要とされるマネジメントの基本的な知識とリーダーシップスキルを学び、キャリアを振り返ることで、社会参画のマインドとキャリアに関する自己効力感を高め、マネジメント職への挑戦を高めることを目的とする。



池上彰氏を招いてのリカレント説明会の後で

2. 実施スケジュール

日時	2023年度主な活動実績	実施対象コース ※女性リーダー・管理職育成コース=女性リーダーコースと表記
6月8日	リカレント教育課程説明会池上彰が語る「DX社会におけるリカレント教育の重要性」講演+ライブ配信	全コース共通
6月12日～8月4日	個別相談会受付開始（ZOOM・対面）スタート	全コース共通
6月16日	KNF ウィミンズカレッジマネジメント入門コース採択	
6月19日	リカレント教育課程受付開始（応募フォームオープン）	
7月1日～8月28日	出願期間	平日通学コース 女性リーダーコース
7月8日	個別相談会（対面：京都女子大学大阪オフィス）	全コース共通
7月10日～8月28日	出願期間	マネジメント入門コース
7月29日	個別説明会（対面：滋賀大学大津サテライトプラザ）	全コース共通
	日本経済新聞（土曜版）へ女性リーダーコース案内掲載	
9月9日～11日	選考面接	平日通学コース 女性リーダーコース
9月13日	第1回文科省リカレントプログラム企画委員会	
9月14日～16日	オンライン面接（KNF ウィミンズカレッジ日本女子大学・福岡女子大学連携）	マネジメント入門コース
9月21日	選考結果通知の発送	全コース共通
	履修手続き期間	全コース共通
9月25日	オリエンテーション（オンデマンド配信開始）	全コース共通
10月21日	入校式（リモート）授業開始	マネジメント入門コース
	授業開始	女性リーダーコース
10月21日～12月3日	コーディネーターによるインテーク面談実施	マネジメント入門コース
10月25日	第2回文科省リカレントプログラム企画委員会	マネジメント入門コース

11月1日	職場見学の実施 Kaien (横浜)・NTT西日本 (大阪)・	マネジメント入門コース
11月2日	職場見学の実施 ComeLuck (福岡)	マネジメント入門コース
11月11日	文科省から授業視察・受講生との意見交換会	マネジメント入門コース
12月16日	池上彰氏リカレントシンポジウム「働きながら学ぶ」(ハイブリッド) 修了生交流会 (1~5期修了生)	全コース共通連携推進課小椋が登壇
12月20日	第3回文科省リカレントプログラム企画委員会	マネジメント入門コース
1月13日・17日・27日	第1回キャリアカウンセリング	マネジメント入門コース
1月15日	氷河期世代の就労支援イベント	平日通学コース
1月19日	リカレント修了生交流会	平日通学コース
1月22日	京都中小企業家同友会との交流会	平日通学コース
2月3日	成果報告会・修了式	マネジメント入門コース
2月5日	成果報告会	平日通学コース
2月10日・16日・17日	第2回キャリアカウンセリング	マネジメント入門コース
2月16日~2月18日	評価部会 (メール会議)	マネジメント入門コース
2月16日	女性のためのリカレント教育推進協議会シンポジウム「アントレプレナーとリーダーシップ」	
2月17日	成果報告会 (グループ発表)	女性リーダーコース
2月19日	リカレント修了式	平日通学コース
2月28日	第4回文科省リカレントプログラム企画委員会	
3月23日	修了式	女性リーダーコース

3. 2023年度データ

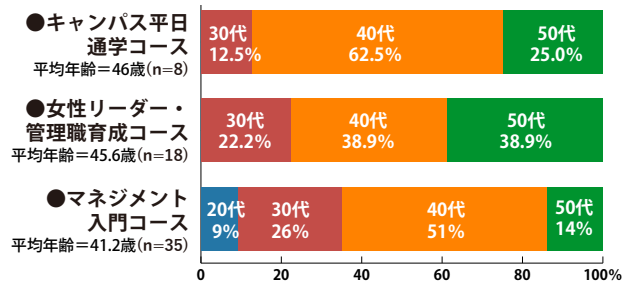
●コース別定員・受講人数・修了者

	キャンパス平日通学コース	女性リーダー・管理職育成コース	マネジメント入門コース
定員	20名	25名	25名
志願者数	8名	18名	54名
受講者数	8名	18名	35名 (充足率:140%)
修了者数	8名 (修了率100%)	18名 (修了率100%)	35名 (修了率100%)

◆受講生の属性

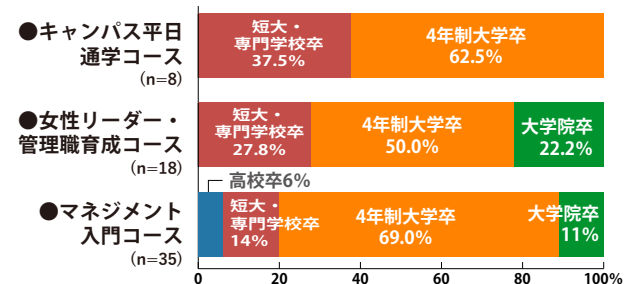
●年代

40歳代を中心に、20代~50代まで幅広い年齢層が受講した。



●学歴

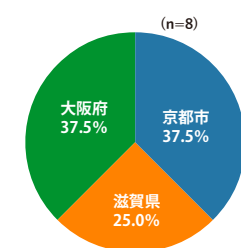
4年制大学卒が過半数を占めた。女性リーダー・管理職育成コースとマネジメント入門コースでは、大学院卒者も受講した。



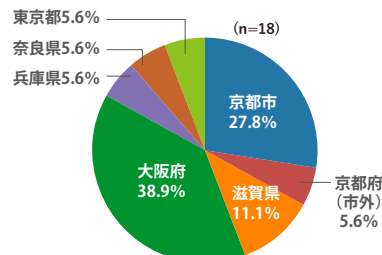
●居住地

通学のコースでも、半数以上が京都市以外から通学。オンライン授業のマネジメント入門コースでは、沖縄・九州・関東など全国から受講生が集まった。

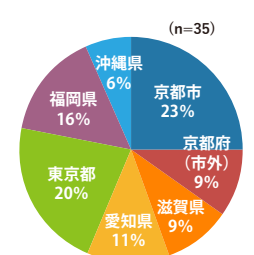
●キャンパス平日通学コース



●女性リーダー・管理職育成コース



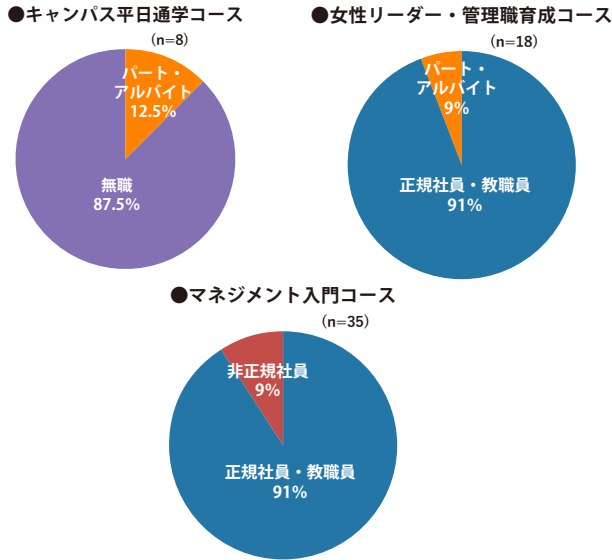
●マネジメント入門コース



リカレント教育課程

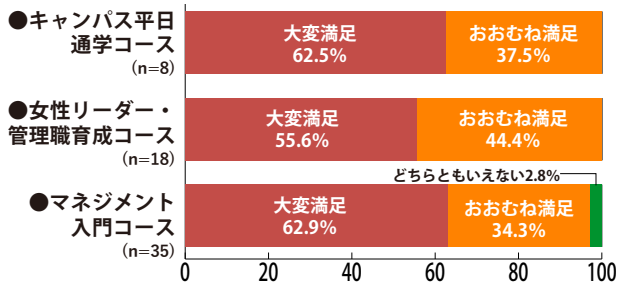
●入学時の雇用形態

キャンパス平日通学コース以外では、正規社員の受講が目立った。

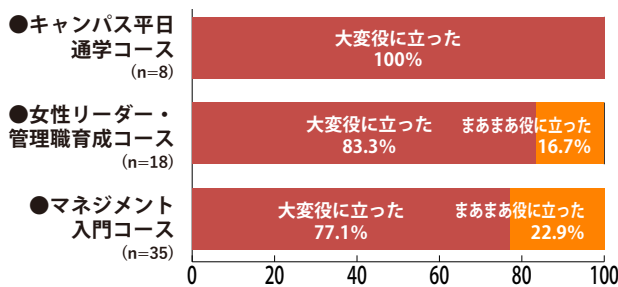


◆講座への評価

●満足度「講座全体の内容に満足できたか」
ほぼ100%が講座への満足を示した。



●キャリアへの有用性「講座が自身のキャリアに役立ったか」
100%がキャリアへ役立ったと評価した。



4. 2023年度コースの特徴と成果

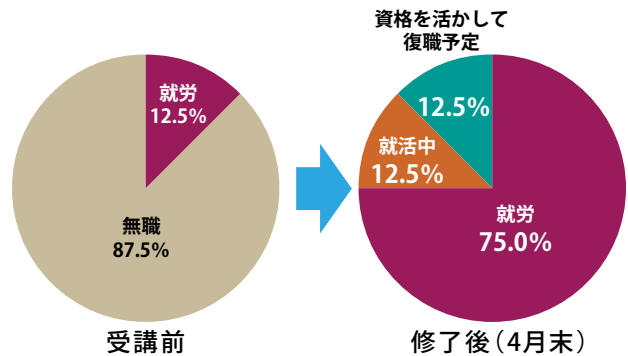
●キャンパス平日通学コース

今年度は、応募者が8名に留まったが、その要因として、コロナ以降オンライン授業が定着し、「通学」よりも自宅で空いた時間を利用して学習したい「オンライン志向」がみられること、以前に比べ数日はパートタイム等で働く女性の比率が高まり、平日での通学が困難な層が増えてきたこと等が考えられる。ビジネス知識やスキルに加えて、学部授業の1部も履修でき、幅広く学べるというこのコースの特徴を活かしながら、通学日数を限定するなど受講生が学びやすい工夫を加えることが、今後の課題となった。

コースでの学びは、少人数の良さが活かされ、学びについて疑問を解決し合ったり、キャリアについて話し合ったりと、コミュニケーションが活発に行われ受講生同士の協力関係が構築されていた。

コースコーディネーターによるインテーク面談、外部キャリアコンサルタントによる3回のキャリアコンサルティング、氷河期世代の就労支援イベント、修了生や京都中小企業家同友会との交流イベントを実施したことで、受講生たちの就業意欲が徐々に高まり、受講時には無職が87.5%を占めていたが、修了後4月末時点では、就業率が75%に好転した。また、4月時点で就業を決めていない受講生も、「子育てが少し落ち着けば、資格を活かして復職予定。」「現在も就活中である。」と就業に取り組む意欲をみせている。自分自身について見つめ直し、今後のキャリアについて考える前向きな姿勢が、どの受講生からも見られたことは、大きな成果だといえる。

○就業率・就業意欲の変化



○科目一覧

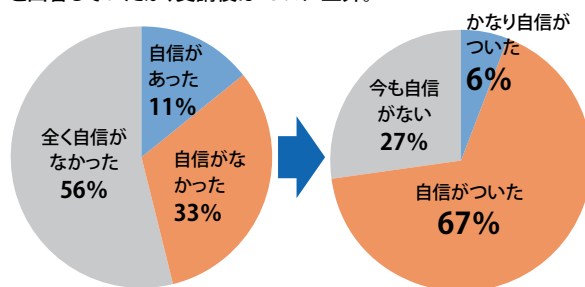
キャリア形成科目		
区分	科目名	授業形態
必須	ライフキャリアデザイン	対面
いずれか1科目選択	パソコン基礎	対面
	パソコン実践	対面
3科目選択	基礎英語	Zoom
	オフィス英語	Zoom
	人的資源管理 (0.5科目)	オンデマンド
	会社法 (起業含む)	Zoom
	企業会計	対面
	マーケティング入門 (0.5科目)	Zoom
	簿記1 (3級)	対面
	簿記2 (商業簿記アドバンス)	対面
	京都とイノベーション (伝統産業) (0.5科目)	対面
	組織マネジメント (0.5科目)	Zoom・オンデマンド
教養科目		
区分	科目名	授業形態
2科目選択	教養科目C (女性を生きる)	オンデマンド
	ファッション文化論	対面
	金融論	オンデマンド
	産学連携講座 A2 (野村証券)	オンデマンド
	ツーリズム論 (0.5科目)	対面

●女性リーダー・管理職育成コース

「キャリアアップしたいが、訓練の場に恵まれず自信がない。」「近くにロールモデルとなる女性リーダーがいない。」「今後のために、情報、人的ネットワークを他業界、他社へも広げたい。」といった開講当初からの要望を受けて、より成果が実感できる講座を目指して、本年度もグループワークや演習を取り入れた対面授業を中心に科目を設定した。受講前と修了後のアンケート結果を比較すると、マネジメント力、リーダーシップ力共に、自信を持つ割合が大きく伸びている。また、リーダー志向に於いても、9割以上の受講生に醸成されていることが確認できた。アンケートの数値からも成果は確認できたが、受講生の実際の声からも、受講が今後のキャリアに役立った、学びの大切さを実感したとの評価が多く聞かれ、授業中には、積極的にディスカッション等に参加する姿が見られた。

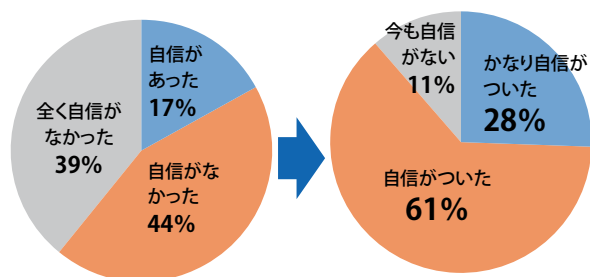
○マネジメント力向上

マネジメント力について、受講前は11%の受講生が「自信がある」と回答していたが、受講後は73%に上昇。



○リーダーシップ力向上

リーダーシップ力について、受講前は、17%の受講生が「自信がある」と回答していたが、受講後は89%に上昇。



○科目一覧

領域	科目名	授業形態
ガイダンス (必修)	キャリアデザイン・ジェンダーダイバーシティ	オンデマンド 対面
	組織マネジメント	オンデマンド
マネジメント科目 (必修)	人的資源管理	オンデマンド
	リーダーシップとコーチング	オンデマンド 対面
	アンガーマネジメント	対面
	経営戦略とサステナビリティ	対面
	アカウンティング	対面
	マーケティング	オンデマンド
	演習 (1) 必修	実践演習Ⅰ
実践演習Ⅱ		対面
演習 (2) 必修	DS 演習Ⅰ	対面
	DS 演習Ⅱ	対面
演習 (3) 必修	リーダーシップ演習	対面
卒業演習 (必修)	卒業演習 (発表会)	対面

リカレント教育課程

●マネジメント入門コース

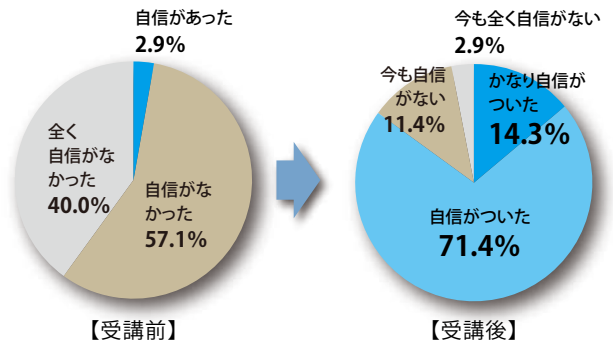
このコースは、令和5年度文部科学省女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援事業として開講された。この事業は女性のためのリカレント教育に実績のある京都女子大学、日本女子大学、福岡女子大学がウィミンズカレッジ(KNF) 連携として、講座企画を行ったところに、本年度の大きな特徴がある。オンライン授業主体であるため、受講生も全国から集まった。

オンライン授業では、座学に留まらず、ブレイクアウトルームによるディスカッションやワークを多く取り入れた。ホームページ内に受講生専用ページを設置し互いが自己紹介を投稿する、コーディネーターとのインテーク面談を一人ずつ行う、授業後のリモート相談時間を設けるなどを実施し、孤独になりがちなオンラインでの授業の中に、コミュニケーション機会を多く設けることで、安心して学習できる環境づくりを行った。結果、共に学ぶ仲間として、受講生同士の親密な繋がりが生まれ、成果報告会では、遠く沖縄や関東からも6割以上の受講生が対面参加するという盛況となった。受講後は、自主分科会が立ち上がり、読書会や講習会

などを開いたり、出張時にその地域の受講生が集まったりといったネットワークが構築された。このネットワークの構築を今回受講したメリットとして、受講生たちの多くが上げている。

受講前には「自信がない」との回答が97.1%だったマネジメント力についても、修了後アンケートでは、85.7%が「自信がついた」と回答し、一定の成果を収めることが出来た。

○マネジメント力の自信の変化



受講前は、マネジメント力に自信がなかった割合が97%。受講後は自信を持つ割合が85.7%と好転。

*令和5年度受講生アンケートより(n=35)

文部科学省委託事業として、学内委員と京都府委員で構成された評価部会では、「各委員から非常に高い評価を得ることができた。」

○評価結果

	プログラムのカリキュラム全体の有益性	受講生同士のネットワーク形成の有益性	目的の達成について	平均値	意見等
評価委員 A (学外)	4	3	4	3.7	受講終了直後の感想だけでなく、一定期間経過後の変化を捕捉することも必要かと思われる。
評価委員 B (学外)	4	3	4	3.7	組織内マネジメントや業務スキルの向上以外の地域づくりや政治に関する分野を科目に取り入れ、受講者に視野を広げていただく有意義な内容だった。また、ジェンダーの視点での学びもあり、受講生がジェンダーの視点を持つことで、後進の女性にも良い影響を与えることが期待できる。
評価委員 C (学外)	4	4	4	4	目に見える形で成長実感が得られており、非常に有意義だ。ぜひ貴学の強いリーダーシップのもと、この成果を積極的に社会に発信し、他の大学の取組をけん引することを期待する。
評価委員 D (学内)	4	4	3	3.7	受講期間が短かったにもかかわらず、受講後にリーダーシップ力に自信がついた者が82.9%であり、リーダーになる心構えができた者が74.3%と素晴らしい。また、マネジメント力についても、自信がついた者が85.7%であり、受講前のマネジメント不安について54.3%が解消されたと回答していることは、素晴らしいと思う。期間がもう少し長いと、マネジメント力やリーダーシップの育成、自己効力感の向上にもより効果が見られたように思う。
評価委員 E (学内)	4	3	4	3.7	各講義の有用性、実際の学びと目的の合致、能力習得への満足度、キャリアを考える有用性のいずれもが高評価を得ており、また意見からは、実務への活用、理論を知ったことでさらに学びを深めたい、さらなる学びを検討するなど、受講者の意識・行動変容を喚起するプログラムとして機能していることがうかがえ、本プログラムの発展的継続が望まれる。
平均	3.6	3.2	3.4	3.7	

○科目一覧

提供機関	領域	科目名	時間	授業形態
合同	その他	入学式・オリエンテーション	1.5	オンライン
京都女子大学	「キャリア」のマネジメント	ライフキャリアデザイン(キャリアについて) [90分×2回]	3	オンライン・オンデマンド
	「人」のマネジメント	人的資源管理 [90分×5回]	7.5	オンデマンド
	「組織」のマネジメント	組織マネジメント [90分×6回]	9	オンデマンド
	リーダーシップとネットワーク	ロールモデルセミナー [90分×2回]	3	オンライン
日本女子大学	「時間」のマネジメント	タイムマネジメント講座 (東京商工会議所連携講座)[1日:5.5時間]	5.5	オンライン
福岡女子大学	戦略的思考とリーダーシップ	イノベーション・マネジメントとデザイン思考Ⅰ [90分×3回]	4.5	オンライン
		イノベーション・マネジメントとデザイン思考Ⅱ [90分×3回]	4.5	オンライン
NTT西日本	DX社会への理解	AIリテラシー [90分×5回]	7.5	オンデマンド
女性教育機関	リベラルアーツと マインドアップ	国立女性教育会館提供セミナー(テーマ:ジェンダーの視点からの持続可能な地域づくり)	1.5	オンライン
		市川房枝財団提供セミナー (テーマ:女性と政治)	1.5	オンライン
合同		FRE協議会シンポジウム	3	オンライン・オンデマンド
京都女子大学		京都女子大学リカレントシンポジウム [12月16日]	3	オンライン・オンデマンド
合同	職場見学(選択科目)	NTT西日本(大阪)・就労支援施設(福岡)・ 就労支援施設(東京)	5	対面
合同	地域活躍(選択科目)	地域リーダーセミナー	3	ハイブリッド
合同	その他	成果報告会・修了式	3	オンライン
合計			68	



職場見学会



成果報告会



修了式

2023年度 主な活動実績

6/8	リカレント教育課程説明会池上彰氏が語る「DX社会におけるリカレント教育の重要性」講演+ライブ配信	10/2	リカレント入校式（平日通学コース）授業開始
6/12	リカレント個別相談会受付開始（ZOOM）スタート～8/4迄	10/14	リカレント入校式（女性リーダーコース）
6/16	KNF ウィミンズカレッジマネジメント入門コース採択	10/21	リカレント入校式（マネジメント入門コース）授業開始 女性リーダーコース授業開始
6/19	リカレント教育課程受付開始（応募フォームオープン）	10/25	第2回文科省リカレントプログラム企画委員会
6/24～7/29	京都府リカレント連携事業「DX人材育成コース」スタート（前期）	10/31	広島大学からの取材（オンライン）
7/1～8/28	リカレント教育課程出願期間（平日通学コース・女性リーダーコース）	11/1	「職場見学～マネジメント入門」Kaizen（横浜）・NTT西日本（大阪）・ComeLuck（福岡11月2日）
7/8	リカレント個別相談会（対面：京都女子大学大阪オフィス）	11/9	岩手県ふるさと振興部学事振興課 リカレントの視察
7/10～8/28	リカレント教育課程出願期間（マネジメント入門コース）	11/11	文科省視察
7/12	リカレント・オンラインセミナー	11/22	株式会社インテージホールディングス協定締結式
7/29	リカレント個別説明会（対面：滋賀大学大津サテライトプラザ） 土曜版日本経済新聞へ女性リーダーコース案内掲載	11/25	京カレッジ 大学リレー講座（中前先生）
8/2	一般社団法人 El Sistema Connect 協定締結式	12/2	京都府リカレント連携事業「DX人材育成コース～2/10（アドバンス）」スタート（後期）
8/26	管理栄養士・栄養士有資格者のための学び直し講座（オンライン）	12/16	池上彰氏リカレントシンポジウム「働きながら学ぶ」（ハイブリッド）
8/31	西脇知事との対談	12/20	第3回文科省リカレントプログラム企画委員会
9/5	ダッソーシステムズ株式会社との協定締結式	12/21	西宮市との協定締結式
9/9～11	リカレント選考面接（平日通学コース・女性リーダーコース）	1/15	氷河期世代の就労支援イベント
9/13	第1回文科省リカレントプログラム企画委員会	1/19	リカレント修了生（平日通学コース）交流会
9/14～16	オンラインリカレント面接（KNF ウィミンズカレッジマネジメント入門コース日本女子大学・福岡女子大学連携）	2/3	成果報告会・修了式（マネジメント入門コース）
9/21	リカレント合格通知発送	2/5	リカレント成果報告会（平日通学コース）
9/25	リカレントオリエンテーション（オンデマンド配信開始）	2/16	女性のためのリカレント教育推進協議会シンポジウム「アントレプレナーとリーダーシップ」
		2/17	リカレント成果報告会（女性リーダーコースグループ発表）
		2/19	リカレント修了式（平日通学コース）
		2/28	第4回文科省リカレントプログラム企画委員会
		3/23	リカレント修了式（女性リーダーコース）
		3/27	久御山町との協定締結式

協定締結先と連携協定内容一覧

(協定締結日順)

協定締結先	協定締結日	連携協定書内容
京都信用金庫	2004/10/18	産学連携活動
東山区役所	2008/2/26	まちづくりの推進に関すること、教育、健康、スポーツ、地域伝統文化の継承と振興、地域産業の振興
近畿中国森林管理局	2008/9/16	「遊々の森」における体験活動
京都大学	2010/6/1	特別研究学生交流
東山区社会福祉協議会	2010/10/4	地域福祉活動、地域福祉推進
京都市中央卸売市場第一市場	2013/11/5	健康増進・食育にかかる情報発信、市場活性化・市場流通品の促進、地域活性化
京都府警察本部	2014/11/7	交通安全の課題と対策、交通安全活動、道路交通環境の改善、通学路の交通安全
阪急電鉄株式会社	2015/3/26	教育、人材の育成、健康、スポーツ、地域伝統文化の継承、地域産業の振興
鳥取県、公益財団法人ふるさと鳥取県定住機構	2015/6/29	就職支援、産学官連携、世代間交流、生涯学習
招徳酒造株式会社	2015/9/18	地域産業・文化の伝承及び情報発信、地域活性化
齊藤酒造株式会社	2015/9/18	地域産業・文化の伝承及び情報発信、地域活性化
株式会社朝日新聞社	2016/1/20	新聞産業・文化の継承と振興、メディア教育、人材の育成
野村證券株式会社	2016/2/1	金融教育、人材の育成
株式会社三井住友銀行	2016/7/8	金融教育、人材の育成、地域活性化
京都刑務所	2016/7/27	教育、人材の育成
奈良女子大学	2016/9/23	女性人材、学生及び大学院生の交流、単位互換
京都市立東山総合支援学校	2016/10/13	教育、人材の育成
株式会社京都銀行	2016/12/8	金融教育、人材の育成、産学連携や地域活性化
京都励学国際学院	2016/12/14	日本語教育課程、留学生教育、協定校の拡充
NPO 法人京都景観フォーラム	2017/1/17	地域景観教育、人材の育成
ムーンバット株式会社	2017/2/6	デザイン教育、人材の育成
ハイアットリージェンシー京都	2017/2/15	寄附講義、ホスピタリティ、人材の育成
大阪ガス株式会社	2017/2/17	寄附講義、人材の育成
京都アメリカ大学コンソーシアム	2017/4/21	語学教育、人材の育成
5× Ruby Inc.	2017/5/15	情報教育、人材の育成、インターンシップ
武庫川女子大学	2017/7/11	SD の実施
奈良先端科学技術大学院大学	2017/7/24	理系人材、学生及び大学院の交流、単位互換
オムロンパーソネル株式会社	2018/3/2	リカレント教育、人材の育成
京都府立医科大学	2018/3/26	教育・研究、学生の交流、教職員・研究者交流
大妻女子大学	2018/4/10	学生及び大学院生の交流、単位互換、教職員及び研究者の交流
鹿児島国際大学	2018/7/23	学生・大学院生の教育・相互交流、学術研究、教職員の相互交流、地域貢献
東山警察署	2018/7/24	事故・事件の防止活動と対策、教育・研究支援
岐阜県白川村	2019/4/1	地域の活性化及び産業の振興、教育、伝統文化の継承と振興、人材の育成
共立女子大学・共立女子短期大学	2019/5/1	学生の教育・学術研究、教職員の相互交流、地域貢献
滋賀県多賀町	2019/6/12	地域産業の振興、地域活性化、人材の育成

協定締結先	協定締結日	連携協定書内容
オムロンエキスパートリンク株式会社	2019/8/1	女性のためのリカレント教育プログラム構築・運営、再就職支援
株式会社ワークアカデミー	2019/8/1	女性のためのリカレント教育プログラム構築・運営、再就職支援
西日本電信電話株式会社	2019/8/1	女性のためのリカレント教育プログラム構築・運営、再就職支援
京都市東山区保育園協議会	2020/6/16	教職員、学生、リカレント受講生の子どもの保育・保育活動
滋賀大学	2020/11/6	学生の教育・研究、学術研究、リカレント教育、文化・芸術の向上
京都中小企業家同友会	2020/12/12	中小企業の理解、地域企業の発展、人材の育成、産学連携や地域活性化
京都中央信用金庫	2021/1/27	金融教育、人材の育成、産学連携や地域活性化
公益財団法人奈良屋記念杉本家保存会	2021/3/9	地域伝統文化の継承と振興、地域活性化、教育活動、人材の育成
京都弁護士会	2021/5/27	実務法曹の能力の向上、学術研究及び教育の推進
日新電機株式会社	2021/7/1	データサイエンス教育・研究、人材の育成等
株式会社半兵衛	2021/7/8	食文化の継承と振興、地域産業の振興
株式会社 SCREEN ホールディングス	2021/8/18	データサイエンス教育・研究、人材の育成等
社会福祉法人京都府社会福祉事業団	2021/10/1	教育・研究、リカレント分野の事業活動等
日本赤十字社京都府支部	2021/11/24	防災教育・研究
京都市	2022/3/28	データサイエンス教育・研究、人材の育成等
オムロンヘルスケア株式会社	2022/3/28	データサイエンス教育・研究、人材の育成、健康教育等
株式会社エヌ・ビー・エル	2022/5/1	学生の教育・研究、学術研究、地域活性化、人材の育成等
京都薬科大学	2022/6/16	学生の教育・研究、データサイエンス教育・研究、リカレント教育等
株式会社 ID ホールディングス	2022/10/18	データサイエンス教育・研究、人材の育成
一般社団法人近畿健康管理センター	2022/10/25	健康・栄養の教育、健診及び関連業務における人材の育成等
西日本旅客鉄道株式会社	2022/10/25	データサイエンス教育・研究、人材の育成、地域の課題解決等
京都府	2022/11/16	データサイエンス教育・研究、人材の育成、リカレント教育、地域活性化等
公益財団法人市川房枝記念会女性と政治センター	2022/11/30	女性の政治的エンパワーメントに向けた人材の育成、女性の政治に関する調査・研究等
NEC ネットエスアイ株式会社	2022/12/13	データサイエンス教育・研究、人材の育成
実践女子大学	2022/12/21	学生の教育・研究、学術研究、リカレント教育、国際交流、人材の育成等
藤田興産株式会社(長岡スイングスクール)	2023/4/1	住民の健康増進及び地域活性化に関すること、人材の育成、健康・栄養の教育及び研究に関すること等
株式会社リンクレア	2023/4/1	データサイエンス教育・研究に関すること、人材の育成に関すること、地域の課題解決に関すること、その他両者が協議して必要と認める事項
一般社団法人 El Sistema Connect	2023/8/2	学生の教育・研究、学術研究、人材の育成等
社会福祉法人恩賜財団 京都済生会病院	2023/8/8	データサイエンス教育・研究、データ知識をもつ医療人材の育成、インターンシップ、リカレント教育促進等
ダッソー・システムズ株式会社	2023/9/5	データサイエンス教育・研究、スマートシティの推進や地域活性化、人材の育成等
ダイハツ工業株式会社	2023/10/2	データサイエンス教育・研究、人材の育成等
株式会社ナイトレイ	2023/10/2	データサイエンス教育・研究、人材の育成等
名古屋製酪株式会社	2023/10/2	健康・栄養の教育・研究、商品開発及び関連業務における人材の育成等
エイターヘルスケア株式会社	2023/10/2	データサイエンス教育・研究、人材の育成等
株式会社インテージホールディングス	2023/11/22	データサイエンス教育・研究、人材の育成等
西宮市	2023/12/21	データ活用の充実、データサイエンス教育・研究、リカレント教育の推進、人材の育成等
久御山町	2024/3/27	地域の活性化、福祉及び農業を含む産業の振興、教育、食育、伝統文化・食文化の継承と振興、人材の育成等

京都女子大学地域・産学官連携ポリシー

(平成29年2月9日制定)

京都女子大学は、創立以来、女性教育のパイオニアとして多様な分野で活躍する女性を輩出してきました。

本学では、親鸞聖人の体した仏教に基づく教育を行うことを建学の精神としています。その目的は、人間教育にあります。仏教を通して自己を見つめ自己中心的な姿を明らかにします。互いが自己中心的存在であることを認め信頼関係を構築していきます。現実の諸問題に対しても、問題の本質を捉え、積極的に取り組む人間形成を目指した教育を実践しています。

この建学の精神に則り、京都女子大学は、地域社会、国と地方公共団体、産業界、そして国際社会の発展に寄与する地域・産学官連携を教育と研究に並ぶ大学の使命の一つとして位置付け、この使命を実現するための基本方針として、以下の通り「地域連携ポリシー」および「産学官連携ポリシー」を定めます。

《地域連携ポリシー》

1. 本学の建学の精神に鑑み、地域社会との持続的な連携を行い、地域社会の活性化のために貢献します。
(社会貢献)
2. 地域連携活動を通じて、地域に関する教育・研究の進展を図るとともに、地域社会の発展に貢献できる女性人材を育成します。(教育研究促進・人材育成)
3. 地域連携により得られた知の成果を広く社会に還元し、地域社会と地域課題の共有に努めます。
(地域課題の共有)
4. 地域連携活動を積極的に推進するための活力ある組織運営を行います。(体制整備)
5. 地域連携活動を大学の自己評価に反映させます。
(自己評価)
6. 本学の地域連携活動を大学の内外に向けてわかりやすく発信します。(情報公開・広報活動)

《産学官連携ポリシー》

1. 公的機関・企業等との共同研究・受託研究等を積極的に推進し、社会・経済の発展に寄与するとともに、本学の教育研究活動の基盤向上を図ります。
(共同研究)
2. 産学官連携活動から得られる成果を本学の教育・研究の促進に役立てます。(教育研究促進)
3. 産学官連携活動を通じて、社会の発展に貢献できる女性人材を育成します。(人材育成)
4. 本学と公的機関・企業等との組織間の明確な契約による連携を基本とし、産学官連携により得られた知的財産を適切に保護・管理し、有効活用していきます。(知財管理・活用)
5. 透明性の高い産学官連携活動を行い、説明責任を果たします。(説明責任)
6. 産学官連携活動を積極的に推進するための活力ある組織運営を行います。(体制整備)
7. 産学官連携活動を大学の自己評価に反映させます。
(自己評価)
8. 本学の産学官連携活動を大学の内外に向けてわかりやすく発信します。(情報公開・広報活動)

以上



編集・発行

京都女子大学 地域連携研究センター

〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町35

TEL. 075(531)9057 FAX. 075(531)7323

E-mail: renkei@kyoto-wu.ac.jp

URL: <https://rccp.kyoto-wu.ac.jp>